

香り高い文化の町づくり

Ⅳ 香り高い文化の町づくり 目次

写 真	353	(10) 同和教育	412
1 教育委員会	383	(11) 視聴覚教育	413
2 学校教育	384	(12) 文化財・文化活動	414
(1) 明神小学校	384	(13) 文化協会	415
(2) 久万小学校	385	(14) 図書館	416
(3) 久万小学校槇谷分校	386	(15) 社会体育（体力づくり）	417
(4) 畑野川小学校	387	(16) 体育協会	420
(5) 直瀬小学校	388	(17) 今後の社会教育	421
(6) 父二峰小学校	389	6 久万町民館	422
(7) 二名小学校	389		
(8) 久万中学校	391		
(9) 畑野川中学校	392		
(10) 直瀬中学校	393		
(11) 父二峰中学校	394		
3 幼児教育	395		
(1) 明神幼稚園	395		
(2) 久万幼稚園	396		
(3) 畑野川幼稚園	396		
(4) 直瀬幼稚園	397		
(5) 露峰保育所	398		
(6) 二名保育所	398		
4 給食センター	399		
5 社会教育	400		
(1) 久万町合併後の社会教育	400		
(2) 公民館と成人教育	402		
(3) 乳幼児教育	405		
(4) 青年教育	406		
(5) 婦人教育（婦人会）	407		
(6) 壮年教育（壮年会）	408		
(7) 高令者教育	409		
(8) 広報活動	410		
(9) P T A	411		

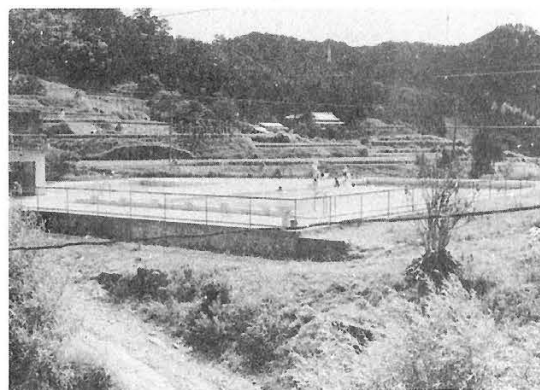
学校教育



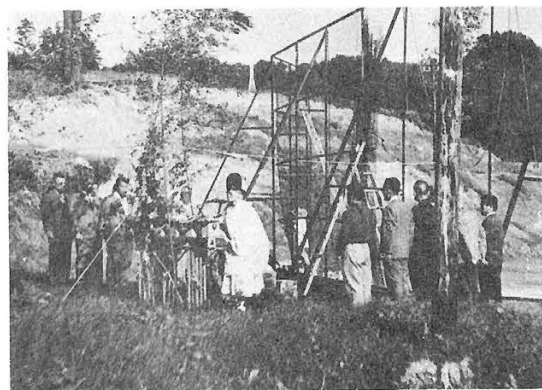
久万小学校本館落成式
(昭和41年3月1日)



久万小学校本館



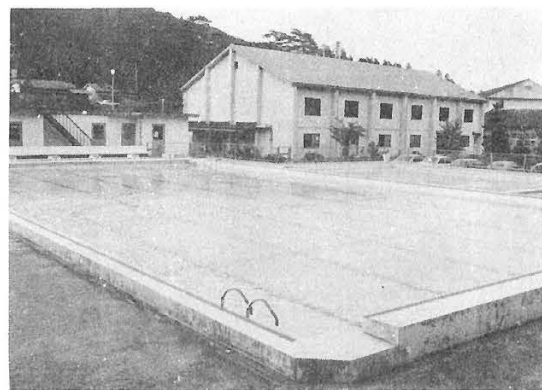
直瀬小学校プール落成式
(昭和42年11月22日)



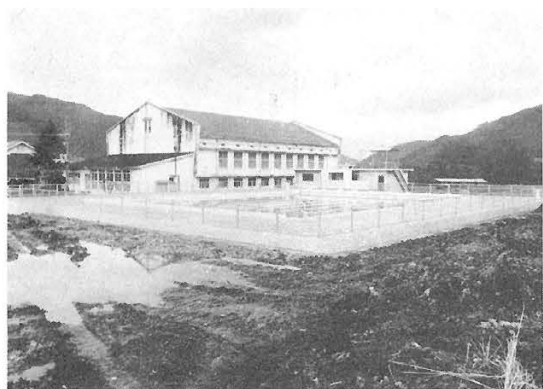
直瀬中学校屋内運動場地鎮祭
(昭和39年5月12日落成式)



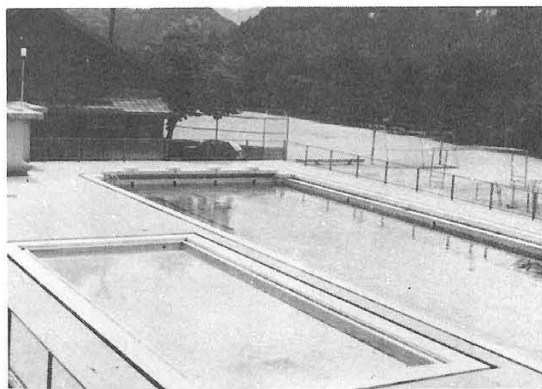
畑野川小学校屋内運動場地鎮祭
(昭和42年2月15日落成式)



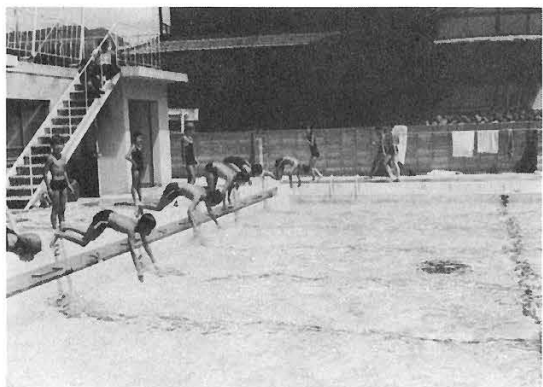
父二峰中学校プール落成式
(昭和45年8月6日)



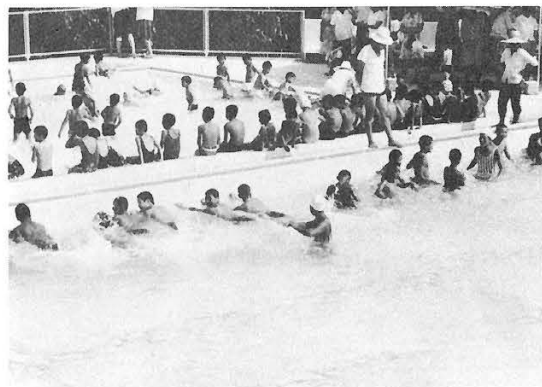
久万中学校プール落成式
(昭和43年12月21日)



二名小学校プール落成式
(昭和43年12月9日)



畑野川小学校プール落成式
(昭和44年8月12日)



父二峰中学校プールびらき
(昭和45年8月6日)



久万小学校プールびらき
(昭和46年8月18日)



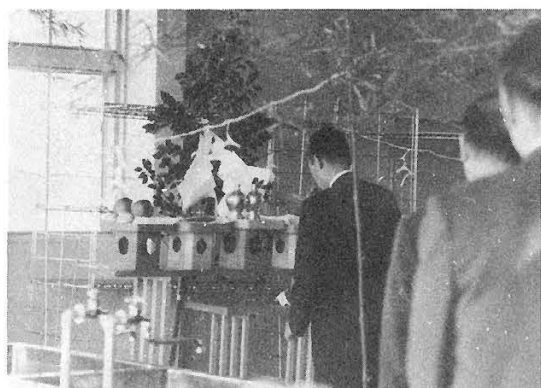
明神小学校プールびらき
(昭和48年8月11日)



久万小学校屋内運動場起工式
(昭和53年1月16日落成式)



久万幼稚園落成式 (昭和53年1月16日)



給食センター落成式 (昭和47年11月11日)



久万幼稚園園舎



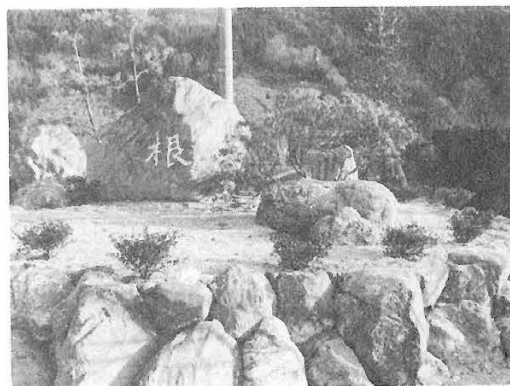
直瀬中学校校訓碑 (昭和51年7月16日)
書 岡田留次氏



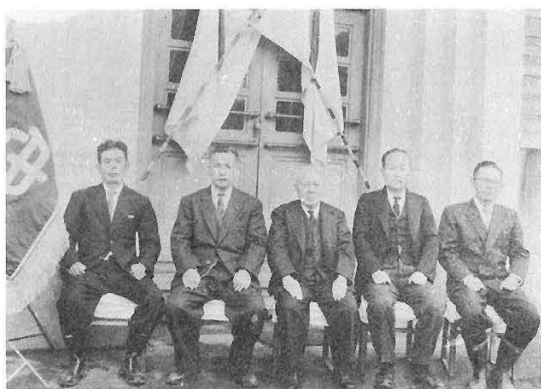
直瀬中学校便所 (昭和52年8月31日)



父二峰小学校訓碑除幕式
(昭和52年2月2日)



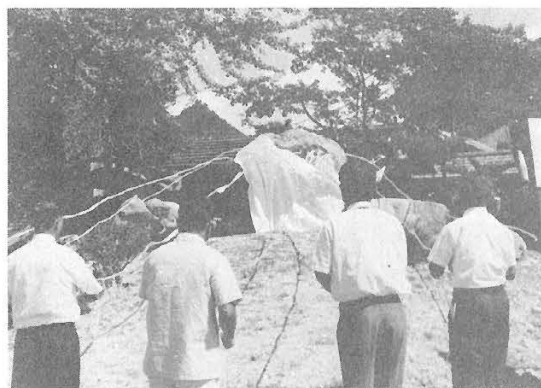
父二峰小学校校訓碑



久万中学校校旗贈呈式 (昭和37年3月20日)
贈呈者 高岡貞一郎氏



父二峰小学校校旗贈呈式
(昭和五二年一月二七日)
贈呈者 愛媛大学名誉教授大野盛直氏



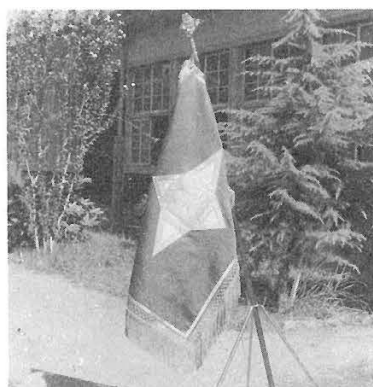
直瀬小学校校訓碑除幕式 (昭和51年9月4日)
碑文 小椋秀雄氏 書 大内範氏



直瀬小学校校訓碑 (昭和51年9月4日)



父二峰中学校校旗贈呈（昭和37年7月20日）
贈呈者 父二峰農業協同組合



直瀬中学校校旗贈呈（昭和37年9月30日）
贈呈者 小椋節三郎氏



明神小学校校旗贈呈（昭和52年9月15日）
贈呈者 明神小学校PTA



久万小学校榎谷分校 昭和40年度入学式
当時記念写真



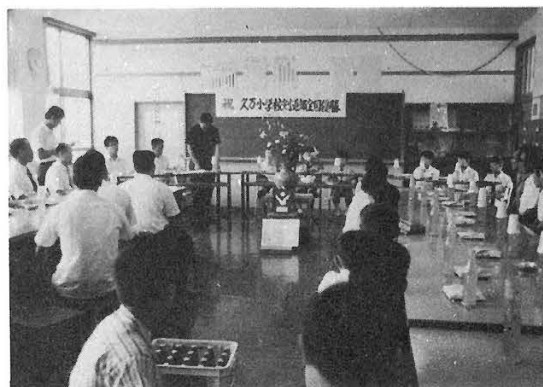
畑野川中学校郡総合体育大会
男子バスケットボール10年連続優勝
（昭和49年6月）



第1回新就職者激励会（昭和45年3月9日）



久万中学校剣道部全国少年剣道大会優勝
(於水戸 昭和40年3月28日)



久万小学校剣道部全国優勝
(昭和46年8月1日)



体育の日記念行事 町内小学校体育大会
(昭和51年10月10日)



父二峰中学校専用柔道場完成 柔道に優秀な
実績を上げている (昭和48年5月26日)



町内中学校合同少年式 (昭和51年2月4日)



水泳大会 (於久万中学校プール
昭和50年8月13日)



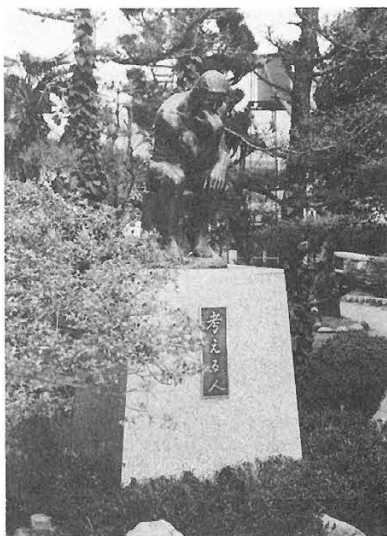
久万町郷土読本（副読本）編集委員会
（昭和45年12月26日）



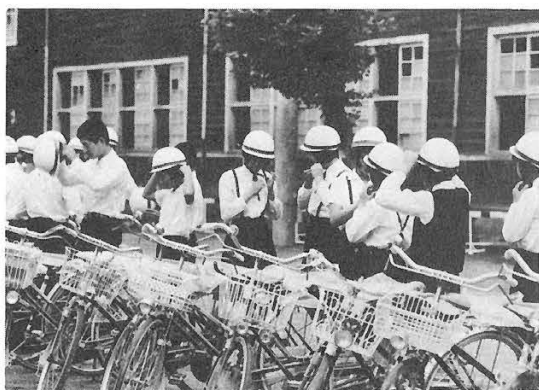
明神小学校親子読書会（昭和51年12月1日）



二名小学校夕涼大会キャンプファイヤー
（昭和52年7月29日）



「考える人」除幕式
（昭和五三年三月二五日）



久万町中学校生徒のうち自転車通学生ヘルメット
着用開始（昭和47年6月20日）



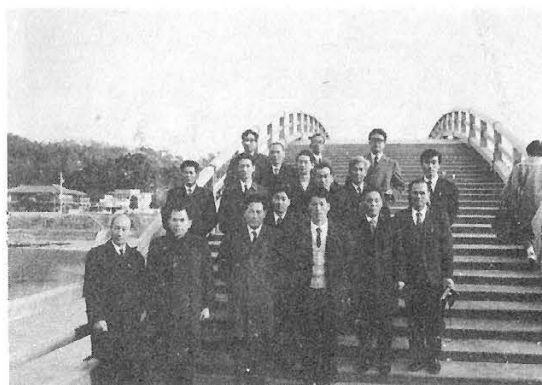
ふるさと移動教室 町内中学校3年生
町内文化財見学（昭和52年11月22日）

社会教育

公民館活動



栄谷愛護班プールづくり奉仕
(昭和43年7月30日)



町内公民館長、主事広島へ研修
(昭和47年1月16日～17日)



久万公民館役員による中央児童遊園地清掃
(昭和49年8月6日)



川瀬地区公民館連絡協議会研修会
(昭和49年12月18日)



町内の全公民館に陽だまりの部屋設置備品を
整備する(昭和49年から昭和53年)



久万町三世交代交流会(古岩屋荘)
(昭和51年2月20日)

公民館活動



伊方町，久万町公民館交流研修会
(昭和51年7月9日)



伊方町，久万町両公民館姉妹公民館となる
(昭和51年7月9日)



父二峰地区三世交代交流会
(昭和51年9月26日)



久万町の公民館長，主事伊方町を訪問
(昭和51年12月16日)



町内公民館役職員研修会 (野尻公民館)
(昭和52年9月22日)



公民館へ出かけての町政こんだん会
(二名公) (昭和53年1月17日)

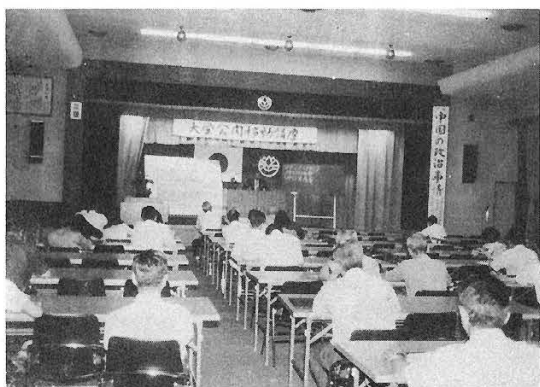
成人教育



夏期成人講座をはじめて開講
(昭和45年7月22日)



盛況の夏期成人講座 (昭和49年7月5日)



愛媛大学法文学部の公開移動講座
(昭和50年7月1日～7月14日)



久万町民大学 (ふるさと出身講師)
(昭和51年7月5日)

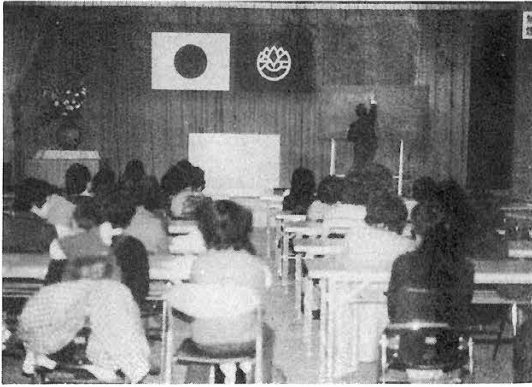


愛媛夏季大学を開講 (昭和51年8月2日)



久万町民大学 (6日間開講)
(昭和52年7月11日)

乳幼児教育



久万町三才児教室 (昭和51年 2月 3日)



久万町乳幼児教室 (昭和51年 6月23日)

同和教育



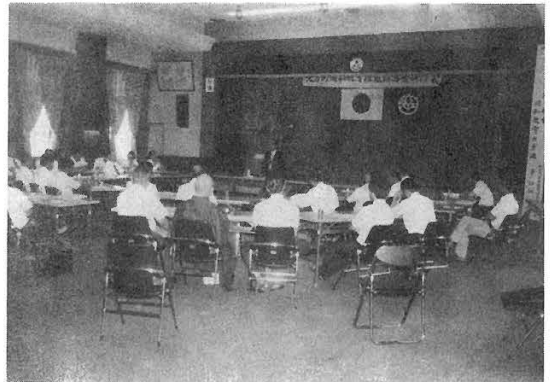
久万町同和教育協議会結成式
(昭和49年 9月 7日)



久万町同和教育指導者研修会
(昭和52年 1月11日)



久万町同和教育協議会理事会
(昭和51年 5月12日)

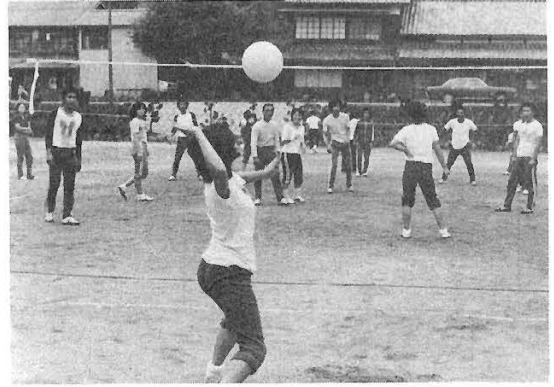


久万町同和教育指導者研修会
(昭和51年 7月23日)

青年教育



第1回女子研修会（昭和35年 6月19日）



恒例のスポーツ大会（昭和49年 7月14日）



女子青年の花嫁修業〈料理講習〉
（昭和49年 9月10日）



学習の場〈中央青年講座〉
（昭和50年 8月28日）



文化活動発表の場〈青年団文化祭〉
（昭和51年 3月14日）



姉妹公民館—伊方町青年との交流
（昭和52年 8月 6日, 12月 3日）
〈久万町〉 〈伊方町〉

婦人教育



久万町婦人団体協議会創立記念大会
(昭和34年 6月27日)



第1回婦人運動会 (昭和35年 9月27日)



第2回久万町婦人大会 (昭和37年 5月3日)



久万婦人運動会 (昭和49年 9月7日)



町長と婦人会役員との座談会
(昭和50年 6月19日)



久万町婦人大学昭和47年より始まる
(昭和50年 7月16日)

壮年教育



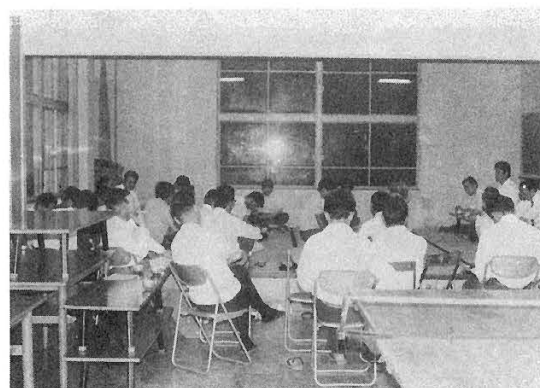
久万町壮年会結成式（昭和49年12月15日）



第1回久万町壮年大学（昭和50年6月15日）



久万町壮年大学町づくり研究会
（昭和51年2月3日）



壮年会父二峰分会地元議員を囲む地域づくり
座談会（昭和51年7月5日）



久万壮年会総会きき酒コンクール
（昭和52年4月23日）



久万町壮年会総会（昭和52年4月23日）

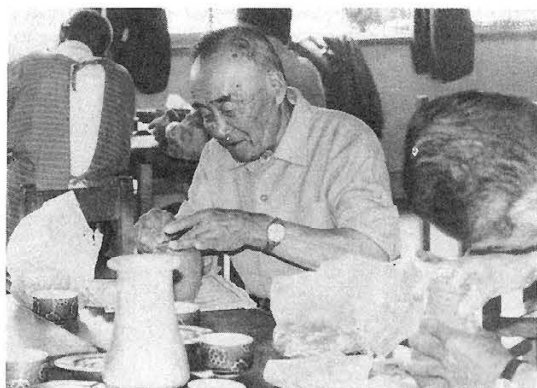
高齢者教育（明治青年大学）



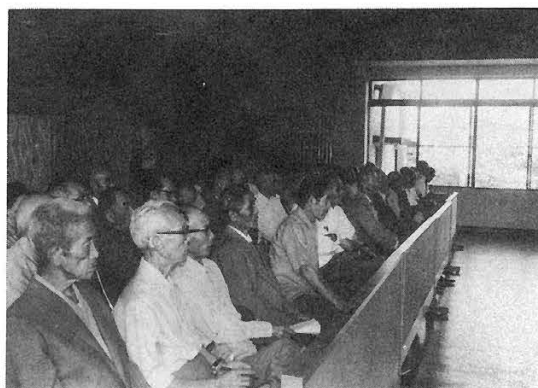
明治青年大学（ふるさとめぐり）
（昭和47年10月25日）



明治青年現地学習（仰西渠）
（昭和48年11月14日）



明治青年らく焼実習にいそしむ
（昭和50年9月22日）



明治青年久万町議会傍聴
（昭和50年9月22日）



明治青年盆栽実習（昭和50年9月22日）



保健所、久万町共催寿健康大学
（昭和52年3月7日）

高齢者教育



三世代交流会（合同植樹）
（昭和51年2月20日）



工作と遊びの教室（久万小）
（昭和51年7月31日）



工作と遊びの教室（久万小）表彰式
（昭和51年8月5日）



テレビ利用合同学習（昭和51年8月29日）



第1回久万町還暦式（昭和52年4月17日）



明神地区三世代交流会（創作館）
（昭和53年2月25日）

PTA活動



愛護班リーダー研修会
(昭和40年2月15日)



新就職者激励会 (昭和48年3月8日)



単P対抗親睦バレーボール大会
(昭和49年7月14日)



久万中PTA文部大臣表彰祝賀会
(昭和50年10月10日)



明神小PTA母と子の記念行事
(昭和51年5月7日)



第8回PTA研究大会
(昭和53年7月3日)

視聴覚教育



ライブラリー機材購入委員会
(昭和50年9月11日)



購入された視聴覚機材 (昭和50年11月11日)



視聴覚技術者認定講習会〈年2回〉
(昭和50年11月25日)



自作映画発表会 (昭和53年3月11日)



〈四コース合同視聴〉
(昭和51年1月27日)

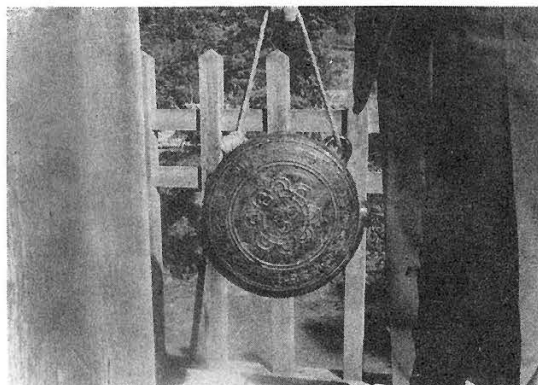


〈あしたばコース〉
(昭和51年1月27日)

文化財・文化活動



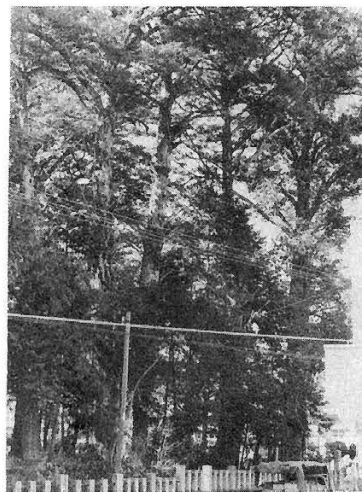
有形文化財（建造物）三島神社拝殿
（昭和37年11月1日県指定となる）



工芸品，鰐口
（昭和47年8月25日町指定文化財となる）



山神遺跡学術調査
（昭和48年9月23日～10月22日）



住吉神社の檜の樹叢
（昭和五十一年八月三日町指定天然記念物となる）



文化財保護委員の文化財研修〈松山にて〉
（昭和52年3月4日）



直瀬地区文化財調査
（昭和52年7月14・15日）

文化財・文化活動



久万町短歌会 (昭和48年 5月21日)



第1回文化祭〈川瀬歌舞伎〉
(昭和49年10月27日)



「久万おどり」練習 (昭和50年 8月 8日)



獅子舞競演大会 (昭和50年10月26日)

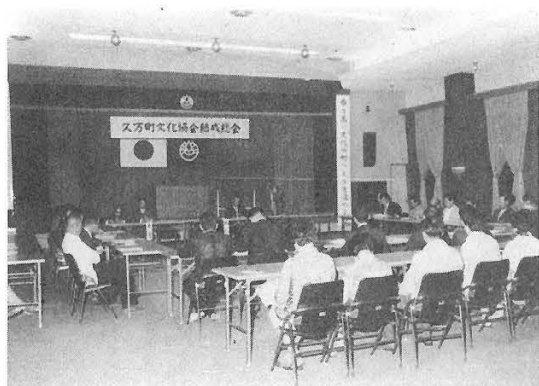


春季郷土芸能発表会 (昭和51年 6月 6日)



秋季文化祭〈落合獅子〉 (昭和51年10月23日)

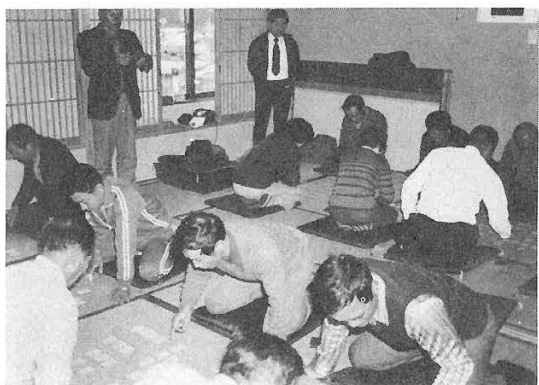
文化協会



久万町文化協会結成総会
(昭和52年6月3日)



第1回万才発表大会開催
(昭和52年9月3日)



新春カルタ大会 (昭和53年1月3日)



久万町俳句大会 (昭和53年4月23日)



舞踊発表大会 (昭和53年6月4日)



民謡発表大会 (昭和53年7月1日)

図書館



巡回移動文庫風景（昭和47年3月21日）



読書グループ協議会結成会
（昭和49年10月21日）



読書グループ協議会研修会
（昭和51年9月29日）



読書グループ研修会「松友孟先生」の
記念講演（昭和51年9月29日）



図書館での読書風景（昭和53年8月18日）



愛媛県読書活動研究地区集会
（昭和52年3月13日於久万町民館）

社会体育（体力づくり）



上直瀬地区野球大会開会式
(昭和34年7月1日)



父二峰地区農民祭仮装行列
(昭和35年11月23日)



町内卓球大会（昭和38年）



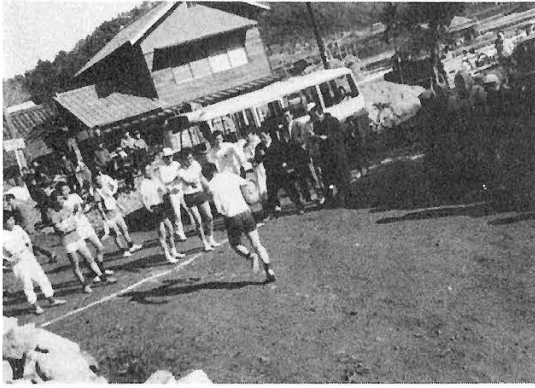
久万町体操できる（昭和39年1月）



片山美佐子オリンピック出場町内パレード
(昭和39年9月13日)



東京オリンピック聖火リレー
(昭和39年9月14日)



久万町青年駅伝大会 (昭和40年1月30日)



第1回久万町民運動会 午前中体力づくり
講演会 (昭和41年11月23日)



笛ヶ滝公園にスキー場完成
(昭和41年12月30日)



第2回久万町柔剣道大会 (昭和42年3月5日)



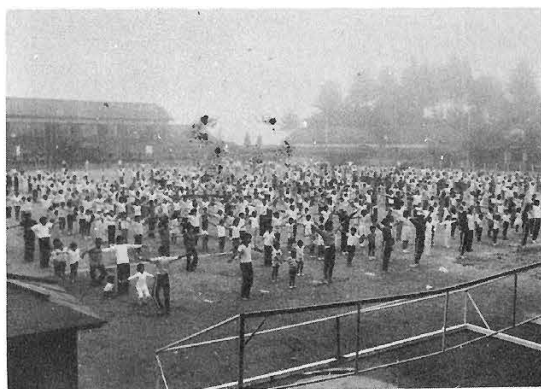
「体力づくりの町久万町」を宣言
(昭和43年7月22日)



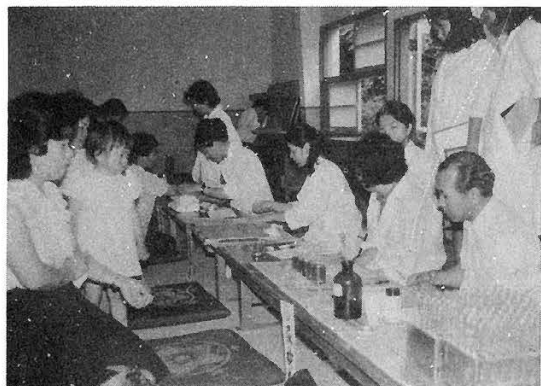
父野川地区運動会 (昭和46年5月5日)



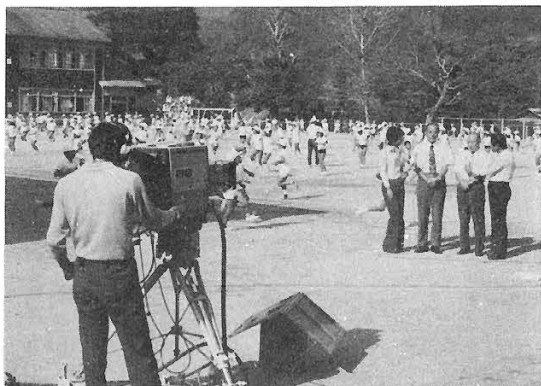
第1回久万町サッカー大会
(昭和47年4月30日)



NHK夏期巡回ラジオ体操会
(昭和49年8月14日)



明神地区の健康診断・栄養調査
(昭和50年7月9～11日)



にっぽんレポート「体力づくり日本一」
録画 (昭和50年9月30日)



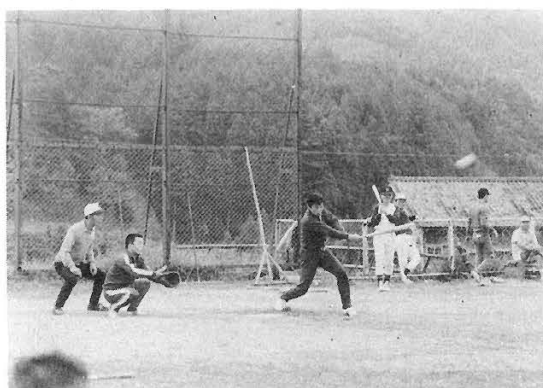
第17回体力づくり運動全国大会にて内閣
総理大臣賞受賞 (昭和50年10月4日)



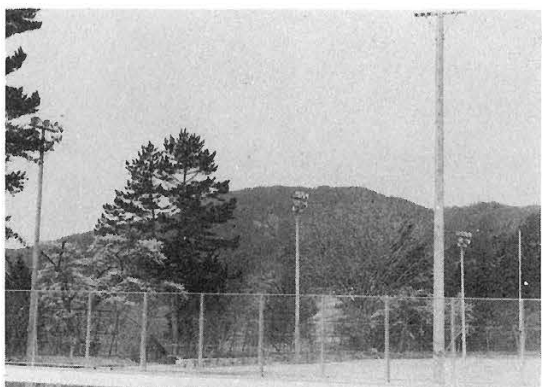
各地区で町民運動会が盛んに行われる
(昭和50年11月3日)



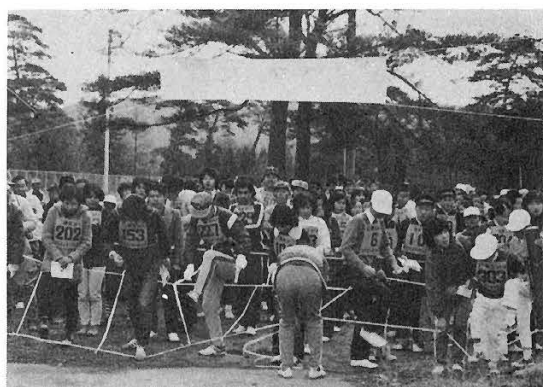
元オリンピック選手生沼スミエを迎えて
バレーボール教室（昭和51年3月31日）



久万町公民館役職員親善ソフトボール大会
（昭和51年6月16日）



父二峰中学校などに夜間照明が設置された
（昭和51年6月21日）



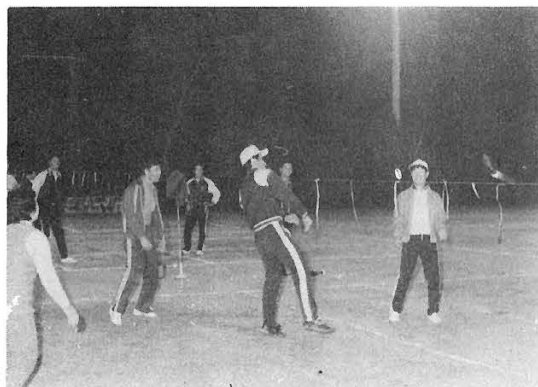
オリエンテーリング公認コースのオープン
記念大会（昭和51年11月21日）



各地区でナイターソフトボール大会が
行われた（昭和51年7～8月）



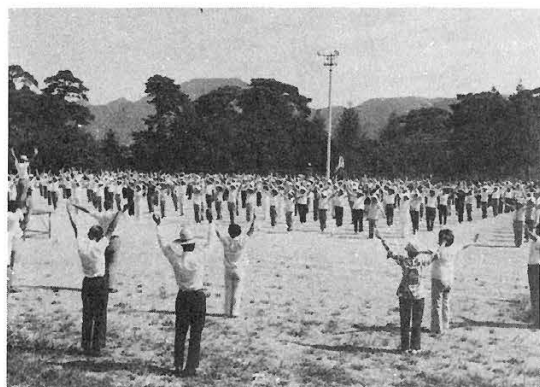
各地でバドミントン教室が開かれた
（昭和52年4月）



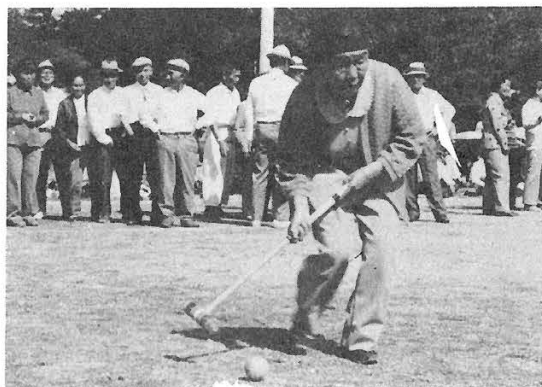
毎月10日を「体育の日」に
(昭和52年 5月10日)



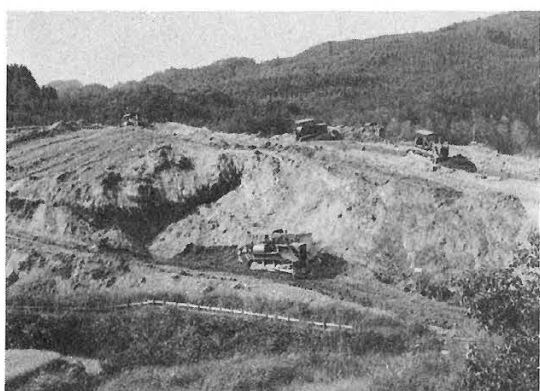
久万町バレーボール選手権大会
(昭和52年 8月11日)



久万婦人運動会 (昭和52年 9月 2日)



社会福祉団体レクリエーション大会
(昭和52年 9月30日)



造成進む久万運動公園 (昭和52年11月)



リトルリーグ愛媛県春季大会
(昭和53年 4月29日)

体 育 協 会

久万町体育協会結成会
(昭和五十一年一月二十六日)



久万町ジュニアスキー大会
(昭和52年2月11日)



久万町駅伝競走大会 (昭和52年3月13日)



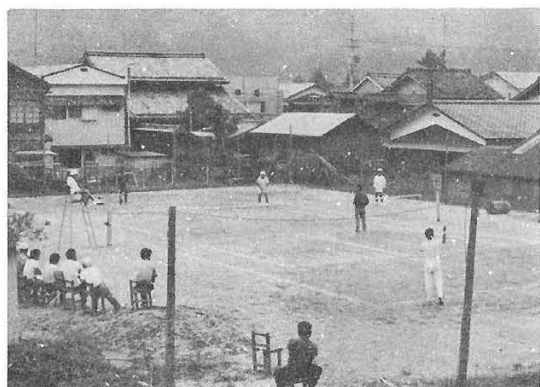
久万町公民館対抗卓球大会
(昭和52年4月25～26日)



久万町剣道大会 (昭和52年8月28日)



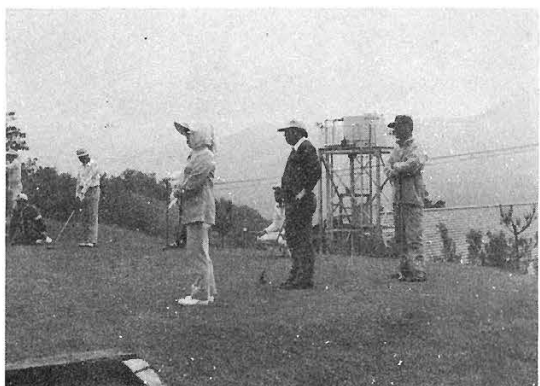
久万町軟式野球大会
(昭和52年8月29日～9月4日)



久万町テニス大会 (昭和52年10月2日)



久万町マラソン大会 (昭和52年12月10日)



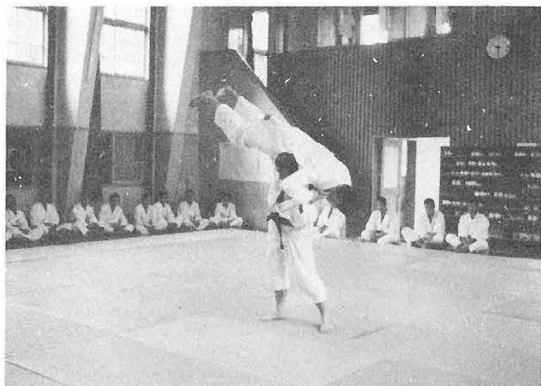
久万町親善ゴルフ大会 (昭和53年6月4日)



久万町ソフトボール選手権大会
(昭和53年6月13~14日)

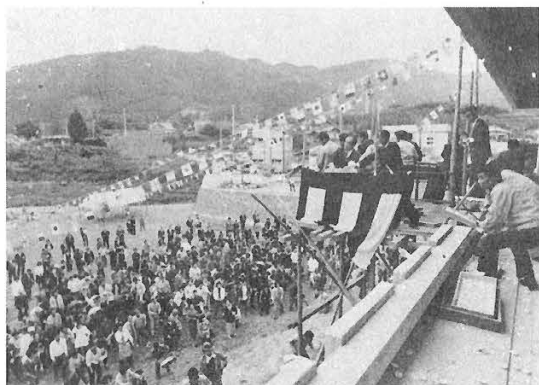


久万町公民館対抗バレーボール大会
(昭和53年7月23日)



久万町柔道大会 (昭和53年7月30日)

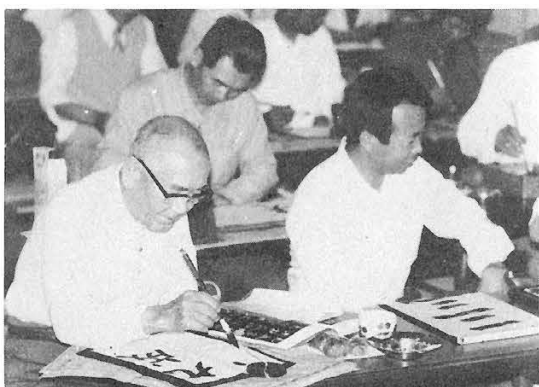
久万町民館



落成祝賀行事〈もちまき〉
(昭和48年10月27日)



会費制結婚第1号(昭和51年11月23日)



習字教室(昭和49年5月23日から)



盆栽教室(昭和51年5月19日から)



舞踊教室(昭和49年5月24日から)



古典読書教室(昭和51年5月20日から)

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

資源弱少国のわが国が国際的に優位の地位を確保するためには人材開発以外にあり得ない。幸に日本民族の優秀性は既に世界の人々に認められているところである。

国家の興亡は教育関係者の双肩にかかっていると言っても過言でない。

久万町は合併後教育第一主義の立場に立って、新しい構想の本に全町民一体となって、学校教育、社会教育振興に努力し今日にいたっている。

1. 教育委員会

合併後昭和34年5月26日付で新しい教育委員が任命された。委員長は菅薫明、教育長には小倉総一郎が就任した。

発足後久万町教育委員会は地行法の精神に基づき学校教育、社会教育の振興、施設、設備の充実に努力してきた。

基本的努力目標は

1. 教育者の自覚と資質の向上。
 2. 地域の実態に立ち、近代化に即応する教育徹底。
 3. 社会教育の重視・生涯教育の徹底・学校、社会、家庭教育の一体化。
 4. 全町的立場に立って政治、経済、教育各機関の連絡を密にする。
- を目標として努力をつづけている。

合併後の教育委員

氏名	住所	就任年月日	退職年月日	摘要	事項	氏名	住所	就任年月日	退職年月日	摘要	事項
小倉総一郎	久万町	昭34. 5.26	昭41. 1.30	死亡	34. 教育長 41.	大野筆太郎	直瀬	昭39. 6.17	昭40. 5.31	任満	41. 教育長 50. 委員長 52. 委員長 現職
大野速雄	東明神	34. 5.26	35. 5.25	任満		石田ハマ子	東明神	39. 6.17	47. 6. 3	任満	
岡譲	畑野川	34. 5.26	38. 5.25	任満	大野卓	直瀬	40. 6. 1	46. 4.18	辞任		
菅薫明	直瀬	34. 5.26	35. 3.29	死亡	34. 委員長 35.	竹内友長	二名	41. 5.10	45.12.31	辞任	
上岡民好	父野川	34. 5.26	37. 5.25	任満		小椋秀雄	直瀬	41. 4. 9		現職	
相原佐加雄	菅生	35. 7.23	39. 7.22	任満	35. 委員長 39.	竹内智夫	二名	46. 1. 1		現職	
福山柳一	直瀬	35. 7.23	39. 6. 5	辞任		大田正志	久万町	46. 6. 9		現職	
恩地義一	露峰	37. 5.26	38. 4.23	辞認		渡部綱賀	入野	47. 6.19		現職	
竹井薫	二名	38. 5.26	41. 5.25	任満	39. 委員長 41.	稲田實	畑野川	50. 6. 9		現職	
小倉清	畑野川	38. 5.26	50. 6. 8	任満		41. 委員長 50.					

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

普通会計歳出決算総額と教育費との比較表

(単位千円)

年度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
総額	85169	101924	267545	216188	206327	166217	228333	294808	273327	385302
教育費	17429	21816	30530	27155	41725	43173	64196	55453	61325	71397

年度	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53(当初)
総額	417310	510453	556945	746984	912849	1111632	1282442	1655666	1906095	1982026
教育費	67129	86176	91779	133358	150238	167394	200104	282696	299439	245416

2. 学校教育

戦後民主主義教育となり、教師中心の教育から児童生徒中心の教育に大きく転換し、デュエーイの教育思想が導入されて、生活経験が重視され、グループ学習、問題解決学習が盛んに実施された。その結果教師の研究不十分もあって、時間を空費し、学習が不徹底となり学力低下という問題がおこってきた。しかし、段々と社会が安定し、経済高度成長、科学技術向上にともなって学力向上が強く要請され、系統学習が重視されるにいたった。特に久万町は進学率が高く、父母の教育に対するの期待と関心も強く、学力向上についての町民の高い要求と私塾もない現状から、もっぱら学校教育に依存し、学校教育にすべての期待をかけているわけである。

文部省が昭和36年より実施した全国学力テストでは久万町内小中学校の成績は極めて優秀であった。

その後経済低成長にともなって経済第一主義、物質主義の風潮が強く反省され、ゆたかな人間性の育成、ゆとりと充実の教育、基礎学力の徹底等を目標として教育課程が改訂され、昭和55年小学校、56年中学校が新教育課程によって教育が実施されることになった。

この改訂が日本教育がめざす方向に前進することに役立つかどうかは現場教師の研究努力にかかっている。教育者はその精神を理解し、学校教育に対するの父母の信頼が増大するように最善を尽すことが何より大切なことである。

久万町は合併以来特に理科教育施設の充実、体力づくりのためのサーキットトレーニング施設、体育館、プールの新設等に努力し、現在では町内各校に施設が完備され教育が着実に進められている。

(1) 明神小学校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	187	175	362	11	13	西本 玉繁	神谷 亀	棟田 満雄	4/14皇太子殿下御成婚記植樹(校門前)
35	157	163	320	9	11	"	"	"	4/16土曜日給食実施
36	159	151	310	8	10	渡部 綱賀	"	大野 速雄	
37	150	145	295	8	10	"	大野 章	高橋進治郎	
38	142	138	280	7	9	"	"	"	

IV 香り高い文化の町づくり

年度	児童数			職員数	学級数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
39	126	122	248	7	10	渡部 綱賀	相原 芳愛	山之内 肇	
40	120	118	238	6	9	"	"	"	
41	114	107	221	6	9	"	"	"	50周年記念行事として郷土室設立・鼓笛隊編成・体育施設充実
42	112	95	207	6	9	"	"	"	
43	104	82	186	6	9	"	"	正岡 昭則	
44	90	82	172	6	9	松本 寛一	"	"	夜間照明施設完成
45	96	74	170	6	9	"	森岡 敏	棟田 昭一	米飯給食実施
46	79	61	140	6	9	"	"	"	
47	65	65	130	6	9	"	"	"	10/1無人化実施
48	55	54	109	6	9	大野 章	正岡 照和	"	8/10プール完成
49	48	48	96	6	9	"	"	大野 隆則	
50	45	36	81	6	8	"	"	"	
51	37	36	73	6	8	石田 精二	"	"	10月親子読書始まる。
52	33	35	68	6	8	"	"	"	6/23校歌制定（作詩長谷川孝士・作曲久米孝義） 9/15校旗校章贈呈式
53	33	31	64	6	8	"	"	"	

(2) 久万小学校

年度	児童数			職員数	学級数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	406	426	834	18	20	西内 清巳	宇都宮 伯	森川源三郎	町村合併により横谷分校本校下に入る
35	380	410	790	18	21	黒田 英雄	三好 四郎	"	
36	340	404	744	18	21	"	川崎 清規	八木修一郎	
37	346	373	719	18	22	"	"	"	落合分校廃校，本校に統合
38	346	339	685	18	21	"	"	東田数太郎	
39	323	325	648	17	21	"	大野 章	"	
40	304	296	600	17	22	"	"	"	特殊学級設置。本校鉄筋2階建落成
41	231	249	478	17	22	"	"	"	講堂移転拡張完成。倉庫新築。校歌制定。
42	232	234	466	14	22	小田 慶孝	上岡 俊信	"	
43	225	220	445	14	20	"	"	"	

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
44	251	232	483	14	19	小田 慶孝	上岡 俊信	東田数太郎	
45	240	223	463	13	19	"	"	奥村 進	VTRの新設
46	237	223	460	13	20	"	山田 照男	"	プール落成
47	231	222	453	13	19	松本 健	大野 伊平	"	
48	200	205	405	13	18	"	"	佐伯 正俊	
49	186	214	400	13	18	土屋 政則	"	"	校長住宅新築
50	183	213	396	13	18	"	"	"	
51	180	198	378	13	19	"	高野 忠夫	高橋 卓良	講堂とりこわし, 体育館新築
52	195	191	386	13	19	土居 通昌	"	"	幼稚園新築の為南校舎とりこわし
53	198	179	377	13	19	"	"	"	

(3) 久万小学校榎谷分校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	13	20	33	3	2	西内 清己	宇都宮 伯		町村合併によまない仕七川小学校分校より久万小学校分校となる。
35	13	17	30	2	2	黒田 英雄	三好 四郎	河合 武美	
36	17	15	32	2	2	"	川崎 清規	柳井 松雄	
37	9	12	21	2	2	"	"	河合 藤重	
38	8	15	23	2	2	"	"	川井 定市	
39	7	14	21	2	2	"	大野 章	河合勘十郎	
40	7	14	21	2	2	"	"	柳井 松雄	
41	7	14	21	2	2	"	"	黒川 勉	
42	5	13	18	2	2	小田 慶孝	上岡 俊信	川井 留雄	第10回NHK全国図画コンクール学校賞受賞。簡易プール設置。
43	4	13	17	2	2	"	"	河合勘十郎	
44	4	9	13	2	2	"	"	川井 留雄	
45	2	9	11	2	2	"	"	黒川源三郎	
46	1	10	11	2	2	"	山田 照男	川井 義弘	
47	0	9	9	2	2	松本 健	大野 伊平	黒川 勉	
48	0	8	8	2	2	"	"	黒川源三郎	
49	0	7	7	2	2	土屋 政則	"	川井 義弘	
50	1	4	5	2	2	"	"	福岡 光盛	県農協共済習字コンクール全員入賞。

IV 香り高い文化の町づくり

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
5 1	2	4	6	2	2	土屋 政則	高野 忠夫	高岡 秋村	読書感想文全国コンクール入賞
5 2	3	4	7	2	2	土居 通昌	"	"	
5 3	3	3	6	2	2	"	"	藤原 忠男	

(4) 畑野川小学校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
3 4	219	214	433	12	14	山口 盛継	大野 伊平	日野 統	本館及び幼児学級教室落成 二宮金次郎銅像除幕式
3 5	209	195	404	12	14	"	"	"	健康優良学校表賞 校歌制定
3 6	200	191	391	12	14	"	"	石丸 亨	
3 7	184	174	358	11	13	藤井 明雄	神谷 亀	"	優良子供銀行全国表彰
3 8	168	151	319	10	12	"	"	"	国旗掲揚台完成 (PTA寄贈)
3 9	147	133	280	9	13	"	"	"	
4 0	133	112	245	8	10	田中 信之	"	日野 朝幸	岩石園完成
4 1	115	109	224	7	9	"	"	"	体育館落成
4 2	99	89	188	6	8	"	"	"	
4 3	95	80	175	6	8	"	"	"	
4 4	88	70	158	6	8	中原 正光	"	渡部 一夫	北校舎夜間照明施設完成 プール落成
4 5	84	63	147	6	8	"	高橋 博	"	
4 6	79	59	138	6	8	"	"	渡部 文男	藤棚及び植物園完成
4 7	76	57	133	6	8	"	"	"	テレビ受像機各教室に設置
4 8	61	53	114	6	8	山之内博淳	"	石田佐々雄	運動場排水工事完成
4 9	57	54	111	6	8	"	"	"	
5 0	53	50	103	6	8	土居 一郎	"	日野 一清	給食室を家庭科教室に改造
5 1	55	46	101	6	8	"	"	稲田 恒利	運動場夜間照明施設完成 校舎南窓をサッシに取替え
5 2	51	46	97	6	8	"	"	竹森 英輔	運動場バックネット改修
5 3	43	41	84	6	9	重松 博	源田 定行	山内 司郎	

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(5) 直瀬小学校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	211	200	412	12	14	小椋 秀雄	大野 章	菅 万夫	
35	217	185	402	12	14	高橋 盛一	"	"	
36	203	180	383	12	14	"	"	"	
37	178	158	336	10	12	和田 盛重	大野 伊平	大野 直長	9/30校旗寄贈—小椋節三郎 校章制定
38	165	151	316	10	11	"	"	"	
39	152	136	288	9	11	高橋 滋	"	"	5/12小中兼用体育館落成 1/23学校・教員住宅用上水道施設完成
40	139	122	261	9	11	"	"	"	
41	125	106	231	7	9	"	"	高岡己年男	10/14交通安全宣言校
42	116	92	208	7	9	平松 幸夫	"	"	11/22小中兼用プール落成(総工費1,035万円)
43	111	83	194	7	9	"	"	大野 俊男	
44	94	75	169	6	8	"	正岡 照和	"	
45	89	63	152	6	8	渡部 雅己	"	小倉 達郎	
46	88	60	148	6	8	"	"	"	
47	77	60	137	6	8	"	"	"	4/1 学校無人化開始
48	69	57	126	6	8	"	源田 定行	"	4/22学校用上水道配管工事完成
49	68	62	130	6	9	相原 芳愛	"	平岡新太郎	
50	63	58	121	6	10	"	"	"	11/15校内テレビ放送施設完成(費用189万円)
51	57	60	117	6	10	"	"	"	9/4国旗掲揚台・校訓碑落成・校歌制定 (校訓碑文 小椋秀雄 校歌作詩 小椋秀雄 作曲 森永妙子)
52	50	57	107	6	10	石丸雄二郎	"	"	10/8 県へき地研究大会 8/15直瀬音頭発表会(作詩曲 宮内正史) 2/19郷土芸能直瀬秀才発表会 PTA県表彰
53	48	51	99	6		"	田中 博	菅 高夫	プール用簡易水道改善

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(6) 父二峰小学校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	169	158	327	12	8	竹内 智夫	山田 健郎	田中 武雄	町村合併により町立父二峰小学校となる。 完全給食実施
35	152	142	294	12	8	土屋 政則	"	"	
36	147	136	283	12	8	"	上岡 俊信	古田 実	落合分教場廃校
37	118	94	212	11	6	"	"	"	
38	115	81	196	10	6	"	"	西岡 忠義	
39	94	64	158	10	6	高岸 勝	"	"	
40	82	59	141	9	6	"	"	古田 実	体育館落成 バックネット新設
41	81	59	140	10	7	北村 実	"	西岡 忠義	校門及び校門前築山と池完成
42	75	46	121	10	6	"	森岡 敏	"	
43	67	55	122	10	6	"	"	"	サーキットトレーニング施設 飼育舎新設
44	59	54	113	10	6	友近 一郎	"	"	運動場東・南金網設置
45	63	55	118	10	6	"	神谷 亀	"	
46	50	49	99	12	6	"	"	寺岡 安雄	焼却炉・耐火金庫設置
47	42	43	85	10	6	泉 洋一	"	"	
48	39	36	75	8	6	"	"	玉泉 猛	体育倉庫設置
49	37	30	67	8	6	"	"	恩地 繁	根の碑落成 昆虫飼育場設置
50	32	27	59	8	5	塩崎 薫樹	"	"	校歌制定
51	25	24	49	8	5	"	"	"	
52	26	22	48	8	5	玉井 伸夫	武市 強	山中 義雄	校旗制定
53	24	24	48	8	5	"	"	"	トリム完成

(7) 二名小学校

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
34	89	72	161	6	8	大野 武男	相原 芳愛	竹内 友長	4/30学校給食開始
35	88	72	160	6	8	"	"	"	7/15テレビ取付 (PTA寄付) 10/4ピアノ設置 (PTA寄付)
36	66	73	139	6	8	"	"	"	

IV 香り高い文化の町づくり

年度	児童数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	重要事項
	男	女	計						
37	62	71	139	6	8	大野 武男	相原 芳愛	日野 秀雄	5/9簡易水道設
38	56	68	124	6	8	小椋伊十郎	"	"	
39	52	63	115	6	8	"	源田 定行	"	5/1観察地の水道設置
40	49	57	106	6	8	"	"	"	5/19バックネット完成
41	45	51	96	6	8	"	"	"	5/9講堂床板張替
42	43	46	89	6	8	"	"	関井 義弘	
43	47	39	86	6	8	山本朝太郎	"	"	11/25ポートホール5年連続優勝特別表彰 12月プール落成式
44	42	37	79	6	8	"	"	"	8/8運動場夜間照明完成 8/31卒業記念庭園(池)完成 11/15へき地優良校表彰・校歌制定 2/10テレビ各教室に設置
45	38	32	70	6	8	"	"	"	9/14理科室改装
46	36	27	63	6	8	木曾 亀廣	"	"	9/6 校舎裏石垣改修(第1期工事) 2/22運動場周囲金網及焼却炉設置
47	33	23	56	6	8	"	"	"	
48	29	24	53	5	8	"	高橋久二男	"	6/1無人化開始 8/2校舎裏石垣金網張完了(第2期工事)
49	24	21	45	4	8	"	"	"	
50	25	20	45	4	8	石丸雄二郎	"	"	7/1校舎裏石垣工事完了(第3期工事)
51	25	21	46	4	7	"	西岡 実義	"	5/2本館屋根ひさし及階上洗手洗場改修工事
52	22	18	40	4	7	神谷 亀	"	宮脇 弘	4/7夜間照明施設改良工事 2/5 自作スライド「ぼくのわたしの二名小学校」県最優秀賞受賞
53	19	15	34	4	7	"	"	"	

(8) 久万中学校

年度	生徒数			学級数	職員数	校長	教頭	PTA会長	生徒進路別				重要事項
	男	女	計						卒業数	進	就	家	
34	262	234	496	9	17	藤井 潤二	小田 慶孝	神野 寅雄	156	98	57	1	片山美佐子砲丸投全国一位 (10.15m)
35	271	268	539	11	17	小椋 秀雄	"	"	137	88	48	1	給食室落成, 給食開始
36	316	282	598	13	20	"	大野 憲	"	192	120	57	15	体育庫・理科室落成 水生植物園完成 校歌制定 校旗寄贈(高岡貞一郎)
37	312	299	611	13	19	"	"	"	188	126	52	10	
38	301	308	609	14	21	"	"	河野 修	210	146	59	5	体育部室完成
39	278	294	572	14	21	"	"	"	190	131	66	0	剣道部水戸大会全国優勝 技術室改装工事完成
40	262	280	542	14	21	"	"	"	193	138	51	4	特殊教育後援会発足
41	245	250	495	13	20	土居 正一	川崎 清規	小倉 清澄	168	123	45	0	交通安全宣言郡交通安全教会よ り表彰。理科室外装完成。 コンクリート渡廊下完成。
42	217	233	450	13	21	"	"	"	162	118	44	2	岩石園完成。調理室完成。 サーキット施設完成(40万円)
43	215	218	433	13	21	"	"	加藤 学	147	118	29	0	プール落成(1350万円) 駐車場完成。
44	205	203	408	12	23	"	"	"	134	100	34	0	ブルスタンド完成(77.5万円) PTA県表彰
45	193	197	390	11	24	"	"	"	146	114	32	0	体育館天井補修工事(195万円) 夜間照明施設完成(150万円) 高市治幸剣道全国大会個人優勝
46	176	183	359	10	21	"	"	"	126	108	18	0	
47	167	174	341	10	22	小田 慶孝	"	佐伯 正俊	111	99	12	0	東田数幸四国総体剣道個人優勝
48	172	164	336	10	21	"	森岡 敏	菅 留八	116	105	10	1	剣道部久万町社会福祉協議会よ り表彰。
49	163	148	311	10	22	"	"	大北 利朗	112	98	13	1	剣道部全国大会ブロック優勝
50	144	143	287	10	23	"	"	棟田 昭一	114	95	9	0	PTA文部大臣表彰

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

年 度	生徒数			学 級 数	職 員 数	校 長	教 頭	PTA会長	生徒進路別				重 要 事 項
	男	女	計						卒 業 数	進 路	就 業	家 族	
51	145	141	286	10	20	小田 慶孝	森岡 敏	染次 集	95	85	9	1	剣道部矢野計雄師範に感謝状贈呈。無人化実施。 剣道部全国大会ブロック優勝。 「考える人」ブロンズ像落成。 剣道部総体15年連続優勝表彰
52	126	136	262	9	20	"	"	"	89	85	3	1	
53	117	127	244	8	17	大野 章	"	"	101	92	9	0	

(9) 畑野川中学校

年 度	生徒数			学 級 数	職 員 数	校 長	教 頭	PTA会長	生徒進路別				重 要 事 項
	男	女	計						卒 業 数	進 路	就 業	家 族	
34	78	68	146	4	7	平岡 末一	大野 憲	日野 統	53	22	27	4	水道工事完成。 新教室（1教室）落成。 校旗制定。 技術教室改修 体育館落成。 無人化開始 郡大会男子バスケット十連勝 柔道教室新設
35	88	79	167	5	7	"	"	"	45	23	20	4	
36	105	96	201	6	9	"	田村 修治	石丸 亨	58	23	34	1	
37	110	100	210	6	9	西岡 忠良	"	"	74	29	43	2	
38	108	105	213	6	9	"	"	"	69	33	33	3	
39	99	103	202	6	9	"	鈴木 貞雄	"	67	39	27	1	
40	93	100	193	6	10	高橋 重政	"	日野 朝幸	74	42	30	2	
41	85	84	169	6	11	"	"	"	58	38	19	1	
42	88	78	168	6	12	"	"	"	58	33	25	0	
43	82	63	145	5	11	"	"	"	50	33	15	2	
44	70	55	125	4	10	光田 敬	石丸雄二郎	渡部 一夫	57	36	21	0	
45	49	46	95	3	9	"	"	"	36	28	7	1	
46	44	35	79	3	9	川口 栄	"	渡部 文男	34	24	10	0	
47	35	38	73	3	10	横田 恒幸	"	"	25	22	3	0	
48	42	29	71	3	9	"	"	石田佐々男	22	21	1	0	
49	42	29	71	3	9	"	"	"	25	23	2	0	
50	41	28	69	3	9	"	古川 宗敏	日野 一清	23	23	0	0	
51	34	33	67	3	9	大野 章	"	稲田 恒利	24	23	1	0	
52	30	27	57	3	10	"	"	竹森 英輔	21	17	3	1	
53	31	29	60	3	10	上甲 計介	小倉 忠司	山内 司郎					

(10) 直瀬中学校

年 度	生徒数			学 級 数	職 員 数	校 長	教 頭	P T A 会 長	生徒進路別				重 要 事 項
	男	女	計						卒 業 数	進	就	家	
34	64	92	156	5	10	大野 政友	岡田 時晴	梅木寛次郎	55	18	25	12	4/1町村合併により町立直瀬中 学校となる。
35	67	105	172	5	9	"	室坂 通泰	"	40	15	20	5	
36	68	105	173	6	11	"	"	"	57	23	25	9	
37	121	116	237	6	11	徳永 元晴	"	"	68	33	30	5	
38	128	112	240	6	11	"	"	"	85	38	49	6	
39	121	113	234	6	12	"	"	大野 卓	75	45	27	3	5/12体育館落成
40	113	106	217	6	12	石田 精二	"	"	76	42	34	1	3/12排水工事了
41	106	103	209	6	12	"	田本 芳夫	大野道太郎	79	46	34	0	8月北校舎塗装 12/5開校20周年記念行事
42	93	90	183	6	12	"	"	"	56	41	17	1	9/16校門完成 11/3 プール完成
43	90	78	168	5	10	"	"	長山 哲三	66	42	24	0	11/3合併10周年記念行事
44	87	70	157	5	12	松田 茂	"	"	57	45	20	0	
45	79	60	139	4	10	"	"	石崎勝太郎	39	33	15	0	
46	70	58	128	4	9	"	杉野庄九郎	"	55	38	15	2	6/25茶・梅植樹 " 運動場北側砂止工事了
47	54	48	103	3	9	藤田 保一	"	松本文四郎	37	37	7	0	
48	49	43	92	3	9	"	"	"	32	29	4	1	
49	51	37	88	3	9	"	田坂 正教	段ノ上 哮	29	27	3	0	4/30上水道工事了 9/1 無人化実施 9/15国旗掲揚台新設 12/4県 P T A 連合会長賞受賞
50	50	40	90	3	9	"	"	"	29	25	4	0	11/11視聴覚施設完成 2/29習字全国農協組合連合会長 賞受賞
51	49	32	81	3	9	中居 茂一	"	"	28	26	2	0	6/27夜間照明施設完成 7/16校訓碑完成 10/8へき地教育研究大会
52	46	31	77	3	9	"	"	菅 俊三	32	29	4	1	8/31便所新築 10/18へき地優秀校県表彰
53	38	32	70	3	9	"	"	平岡新太郎	20	20	0	0	(1学期末希望)

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(11) 父二峰中学校

年 度	児 童 数			学 級 数	職 員 数	校 長	教 頭	P T A 会 長	生 徒 進 路 別				重 要 事 項
	男	女	計						卒 業 数	進 路	就 業	家 数	
34	96	93	189	6	11	黒田 英雄	木村 忠	高岡 信栄	55	21	27	7	4/1町村合併により町立父二峰中 学校となる。 6/20学校給食開始
35	104	105	209	6	11	橋本鬼士男	川崎 清規	"	43	22	16	5	5/8テレビ設置
36	140	123	263	7	13	"	大野 貴義	"	84	41	32	11	2/9講堂を特別教室とする。
37	131	118	249	7	13	"	"	"	67	42	20	5	7/20校旗購入
38	126	114	240	7	12	"	田本 芳夫	"	94	58	32	4	
39	95	102	197	6	12	中塚 重夫	"	"	68	48	18	2	6/20公堂住宅建設（6戸）
40	89	91	180	6	12	"	"	中田 重雄	60	40	19	1	
41	83	77	160	5	11	"	土井 幹彦	"	66	57	9	0	6/30謄写ファックス購入
42	81	73	154	5	10	"	"	"	55	45	8	2	8/30本館内部塗装
43	70	61	131	4	10	"	"	竹内 友長	40	30	9	1	10/30本館屋根瓦ふ
44	71	62	133	4	10	"	"	"	57	44	12	1	9/30国旗掲揚台完成
45	54	46	100	3	10	"	東 恒雄	"	34	32	2	0	8/6プール落成
46	52	48	100	3	10	"	"	"	41	34	7	0	12/2運動場周囲金網完成
47	50	40	90	3	10	木村 孟	"	"	22	20	2	0	
48	53	38	91	3	9	"	"	"	33	31	2	0	5/26本館の一室柔道完成
49	51	38	89	3	9	"	"	岡田 元一	33	30	3	0	7/31東便所改修
50	45	37	82	3	9	"	"	玉泉 猛	24	22	2	0	6/13体育館屋根塗装 8/21校内放送施設改修 3/16学校研究林園完成
51	41	39	80	3	9	"	"	"	32	31	1	0	7/1夜間照明施設改修
52	33	34	67	3	10	相原 芳愛	泉 唯雄	恩地 繁	25	24	0	1	6/29教育後援会結成 8/21体育館倉庫屋根修理
53	32	26	58	3	10	"	"	"	22	15	5	2	体育館入口改修

3. 幼児教育

昭和27, 28年頃から, 全町的に幼児教育の必要性が強調されるようになってきた。学齢に達した幼児が, 無理なく学校生活に移行できるよう, 就学前の教育としての幼児教育充実を希望したわけである。

このような働きかけは婦人会が中心であった。やがて行政を動かし幼児学級という名目のもとに小学校の教室を使用して, 保母は小学校の教師が兼務で保育にあたったのが始まりである。

昭和34年3町村が合併し, 新久万町発足以来独立の園舎もとのい, 久万幼児学級は久万幼稚園となり, 他の5か所はへき地保育所として2年保育となった。

最近幼児教育の重要性がさけばれ, 小学校区ごとに幼稚園建設が奨励されているので, その基本線に即応して, 52年度久万幼稚園は新園舎を6,466万円也で建設し, 明神保育所, 畑野川保育所, 直瀬保育所はそれぞれ幼稚園に切りかえられた。4才児5才児全員が公立幼稚園, 保育所で教育を受けることは幼児教育充実のために大変よろこばしいことである。

(1) 明神幼稚園

年度	幼 児 数			学級数	職員数	園 長	父母の会々長	重 要 事 項
	男	女	計					
34	24	21	45	1	2	西本 玉繁		町内幼児教育研究会開催
35	24	21	45	1	1	"		
36	19	20	39	1	1	渡部 綱賀		小学校内に新園舎一棟落成
37	25	21	46	2	2	"	山之内 肇	全日保育となる 2学級編成 保母2名
38	14	15	29	1	1	"	新崎一二三	ミルク給食開始
39	26	21	47	2	2	"	正岡 侶則	僻地保育所に認可
40	20	6	26	2	2	"	高橋進治郎	完全給食開始
41	16	16	32	1	2	"	加藤 学	県委嘱の幼児教育学級併設
42	14	10	24	1	2	"	露口 靖	文部省指定の婦人学級併設
43	13	17	30	1	2	"	棟田 壽明	
44	20	7	27	1	2	松本 寛一	棟田 晁	町内幼児教育研究会開催
45	13	16	29	2	2	"	石岡サダ子	2年保育になる
46	8	17	25	2	2	"	大野 隆則	
47	6	14	20	2	2	"	"	
48	9	12	21	2	2	大野 章	石岡サダ子	
49	11	14	25	2	2	"	山之内タマ子	町内幼児教育研究会開催 親子読書開始
50	12	14	26	2	2	"	窪田 正雄	
51	13	9	22	2	2	石田 精二	岡田 隆綱	町内幼児教育研究会開催 親子読書開始
52	14	17	31	2	2	"	窪田 正雄	
53	16	15	31	2	2	"	正岡紀代子	幼稚園に認可 町内幼児教育研究会開催

IV 香り高い文化の町づくり

(2) 久万幼稚園

年度	幼児数			学級数	職員数	園長	父母の会々長	重要事項
	男	女	計					
34	41	42	83	2	2	西内 清己	大野 定雄	久万幼児学級運営要項決定 専用園舎落成
35	42	45	87	2	2	黒田 英雄	井上 幸雄	久万町立久万幼稚園の認可
36	48	48	96	2	3	"	安藤常太郎	日本学校安全会愛媛支部より無災害表彰
37	40	43	93	3	3	"	山之内正昭	
38	39	41	80	3	3	"	河野 敬子	パンとミルクの給食開始
39	37	39	76	2	3	"	棟田 静子	
40	50	48	98	2	4	"	大西美佐雄	父母の会よりピアノ台寄付 戸外物置新設
41	52	39	91	2	4	"	和田 正	
42	38	27	65	2	4	小田 慶孝	藤田 勲	完全給食開始。学校安全会より安全対策優秀表彰
43	39	35	74	2	4	"	真木 孝志	
44	33	42	75	2	5	"	大北 利朗	
45	26	34	60	2	4	"	佐佐 正俊	スクリーン、スライド購入
46	32	31	63	2	4	"	大野 広之	プール落成(メイン、ベビー)
47	44	50	94	3	6	松本 健	山田耕一郎	4才、5才の2年保育開始
48	65	53	118	4	8	"	井部 誠	
49	61	54	115	4	8	土屋 政則	染次 国広	幼稚園専用旧運動場整地 カラーテレビ寄付
50	64	68	132	4	8	"	倉橋 芳友	テーブルコーダー購入。湯沸器と流し台設置
51	59	58	117	4	8	"	田村 友信	父母の会よりカラーテレビ寄付
52	55	59	114	4	8	土居 通昌	土居 敏夫	鉄筋2階建園舎落成 父母の会より備品寄付
53	67	59	126	4	8	"	井村 靖博	第25回全幼研第7会々場 新運動場の拡張

(3) 畑野川幼稚園

年度	幼児数			学級数	職員数	園長	父母の会々長	重要事項
	男	女	計					
34	27	25	52	2	1	山口 盛継	岡 譲	新園舎落成。2学級編成
35	32	27	59	2	1	"	日野 茂	校下一般者の寄付により室外遊具充実
36	25	24	49	2	1	"	石丸 亨	町内幼児教育研究会開催
37	25	19	44	2	1	藤井 明雄	日野 統	2学級編成 隔日保育
38	13	19	32	2	1	"	渡部 昭一	町内幼児教育研究会
39	14	13	27	1	1	"	石田多美雄	1学級編成 毎日保育週6日登園
40	16	17	43	1	1	田中 信之	日野 常行	
41	18	12	30	1	1	"	石田多美雄	

IV 香り高い文化の町づくり

4 2	1 4	1 4	2 8	1 2	田中 信之	稲田 福富	僻地保育所として認可
4 3	1 5	9	2 4	1 2	"	大西 武志	1学級編成で保母2名。町内幼児教育研究会開催
4 4	2 1	1 6	3 7	2 2	中原 正光	岡 徳広	2年保育となる
4 5	2 4	1 9	4 2	2 2	"	西村 敦雄	2教室に改造。付属電話架設
4 6	1 8	1 6	3 4	2 2	"	上岡 浪夫	寄付金によりピアノ購入。事務室任切り工事完了
4 7	1 3	1 4	2 7	2 2	"	渡部 文男	家庭教育学級開設年7回
4 8	1 6	1 7	3 3	2 2	山之内博淳	藤原 強	町内幼児研究会開催。石油ストーブ購入
4 9	1 6	1 5	3 1	2 2	"	西岡 享	カラーテレビ購入
5 0	1 7	1 4	3 1	2 2	土居 一郎	八塚 賢三	カメラ1台父母の会より寄付
5 1	1 1	1 2	2 3	2 2	"	渡部 弘子	保育所周围の柵完成
5 2	1 1	1 3	2 4	2 2	"	土居佳代子	父母の会より電気掃除機、色画用紙整理柵寄付
5 3	1 3	1 1	2 4	2 2	重松 博	武智 清子	畑野川幼稚園として認可。倉庫改築

(4) 直瀬幼稚園

年度	幼 児 数			学級数	職員数	園 長	父母の会々長	重 要 事 項
	男	女	計					
3 4	3 5	2 7	6 2	2 1	小椋 秀雄	菅 良太郎	保育所独立園舎落成。戸外遊具設置。隔日保育	
3 5	2 6	2 8	5 4	2 1	高橋 盛一	長山 哲三	室内遊具設置	
3 6	2 9	1 9	4 8	2 1	"	大野 卓		
3 7	3 3	2 3	5 6	2 1	和田 盛重	小倉 鶴一		
3 8	1 6	1 8	3 4	2 1	"	大野 利行	校下より白黒テレビ2台寄付	
3 9	1 7	1 5	3 5	2 1	高橋 滋	小倉 達郎	全日保育開始	
4 0	2 0	1 4	3 5	2 1	"	大野 卓	校下より幻燈機寄付	
4 1	1 3	9	2 7	2 2	"	大野 里利	僻地保育所となり保母2名となる	
4 2	2 0	1 6	2 9	2 2	平松 幸夫	平岡新太郎	父母の会より室内遊具寄付	
4 3	1 3	1 8	2 9	2 2	"	菅 俊三	校下よりピアノ一台寄付	
4 4	2 6	2 3	4 4	2 2	"	平岡新太郎	父母の会より室内遊具寄付。2年保育	
4 5	2 3	2 2	4 6	2 2	渡部 雅己	"		
4 6	1 2	2 2	3 4	2 2	"	"	父母の会寄付により電話設置	
4 7	2 1	2 2	4 3	2 2	"	"	校下、父母の会よりカラーテレビ外2点寄付	
4 8	2 8	1 9	5 0	2 2	"	菅 高夫	ママとボクの広場(遊園地)設置	
4 9	1 7	1 4	3 6	2 2	相原 芳愛	長山喜久夫	父母の会より演芸用幕寄付	
5 0	1 0	1 2	2 4	2 2	"	大野寛十郎	大鏡寄付。秋秀町内研究会	
5 1	8	1 2	2 0	2 2	"	松本文四郎	父母の会よりカラーとび箱、版画セット寄付	
5 2	1 0	1 5	2 5	2 2	石丸雄二郎	"	父母の会よりガス釜、アコーディオン寄付	
5 3	9	1 5	2 4	2 2	"	長山 文子	直瀬幼稚園として認可。ストーブ、農具一式寄付	

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(5) 露峰保育所

年度	幼児数			学級数	職員数	所長	父母の会々長	重要事項
	男	女	計					
34	12	8	20	1	1	竹内 智夫		町教委の管理となり所長認命
35	22	19	41	1	1	土屋 政則	西岡 忠義	運動会、学芸会に参加。遊具充実
36	18	7	25	1	1	"	"	保育室改修工事。幼児机、椅子購入
37	18	9	27	1	1	"	中岡 義隆	隔日制になる
38	7	8	15	1	1	"	中岡 登	季節的週3回保育
39	12	12	24	1	1	高岸 勝	中岡 豊数	全日制になる
40	12	10	22	1	1	"	河野 幸義	年間小学校に準じて開園。かべにベニヤ板をはる
41	15	21	36	2	2	北村 実	白石 勝	僻地保育所として認可。2年保育。完全給食
42	16	21	37	2	2	"	玉泉 猛	テレビ、ステレオ、プロパンガス寄贈
43	20	14	34	2	2	"	中野 久	町内保母研修会開催
44	11	12	23	2	2	友近 一郎	丸山 武志	施設、設備の改増設の要望高まる
45	13	11	24	2	2	"	恩地 繁	3年保育。ピアノ寄付。1組は混合保育。
46	15	9	24	2	2	"	井口 修一	保育所改造の為小学校借りる。家庭教育学級開講
47	13	11	24	2	2	泉 洋一	中野 久	保育所大改増築工事完成。カラーテレビ1台寄付
48	13	15	28	2	2	"	山中 義雄	郡内幼児教育研究会開催
49	9	13	22	2	2	"	露口修一郎	町内幼児教育研究会開催
50	9	12	21	2	2	塩崎 薫樹	高岡 照	保育室、職員室のじゅうたん外寄付
51	8	11	19	2	2	"	村田 吉雄	園舎廊下床全面張替。大型箱積木寄付
52	11	12	23	2	2	玉井 伸夫	岡田 弘	父兄よりこいのぼり寄付
53	9	10	19	2	2	"	白石 佳基	"

(6) 二名保育所

年度	幼児数			学級数	職員数	所長	父母の会々長	重要事項
	男	女	計					
34	15	11	26	1	1	大野 武男		雨がさ、ままごと、絵本購入
35	10	13	23	1	1	"	日野 秀雄	ピアノ、幼児学級備品PTAより寄付
36	8	14	22	1	1	"	竹内 秀子	僻地保育所開設協議会発足
37	14	16	30	2	2	"	土居 康男	2年保育。僻地保育所として認可。
38	17	14	31	2	2	小椋伊十郎	"	
39	21	13	34	2	2	"	竹内 友長	テレビ寄付
40	13	15	28	2	2	"	"	園舎起工式
41	18	10	28	2	2	"	"	園舎落成。ピアノ、ステレオその他遊具寄付

4 2	1 5	1 1	2 6	2 2	小椋伊十郎	竹内 友長	
4 3	5	1 2	1 7	2 2	山本朝太郎	宮脇 弘	オルガン、テープレコーダー購入
4 4	8	9	1 7	2 2	〃	〃	1日臨海学校(新川)
4 5	1 5	1 2	2 7	2 2	〃	〃	3年保育開始。台風十号のため園舎屋根瓦破損
4 6	1 6	8	2 4	2 2	木曾 亀廣	〃	園舎の屋根をトタンにふき替える
4 7	1 0	1 0	2 0	2 2	〃	石丸 司	物置焼失。郡幼児教育連絡協議会秋季研修会開催
4 8	8	1 1	1 9	2 2	〃	宮脇 弘	保育所修復工事完成
4 9	7	1 0	1 7	2 2	〃	〃	ママとばくの広場遊具取付け
5 0	1 0	6	1 6	2 2	石丸雄二郎	速水 健一	交通安全教室開講
5 1	9	3	1 2	2 2	〃	山下 常雄	父母の会員により物置完成
5 2	8	4	1 2	2 2	神谷 亀	〃	上浮穴老人ホーム慰問
5 3	4	6	1 0	2 2	〃	宮脇 弘	父母の会により物置をつくる

4. 給食センター

久万町婦人会、PTAは青少年体位向上のために完全給食について熱烈な要望をくりかえした。久万町はこの切なる要望の線にそって、全町的に完全給食を実施することにした。

明神小学校 昭和32年11月、久万小学校 昭和33年11月
 直瀬小・中学校 昭和34年 3月、畑野小・中学校 昭和34年 3月
 二名小学校 昭和34年 4月、父二峰小・中学校 昭和34年 5月
 久万中学校 昭和35年 9月、

完全給食は体位の向上のみでなく、家庭の食生活の改善、栄養知識の普及徹底、学校における教師と児童生徒との人間関係確立、食事についての躰の徹底等その他にも効果の大なるものがありこの実施は関係者も、地域住民も大きい期待を持って見守ってきた。

昭和40年度より栄養士を設置して献立や給食についての指導の徹底に努力している。

しかし給食調理の場所が7か所に分散しているために、それぞれの場所によって、給食物資の価額に差を生じ、そのことが同一献立で調理が出来ない原因となり、同一給食費で同一給食をすることが不可能となって、全町の児童生徒の栄養のバランスがとれない結果をまねいてきた。そこで給食指導の徹底、衛生管理、能率的処理等を円滑に対処していくため、給食センター設立の必要性が痛感されてきた。

給食センターは昭和47年7月10日着工、11月11日落成し、12月1日より町内小中学校児童生徒が同一の給食を開始したのである。

○敷地面積2250.95㎡ ○建築面積584.95㎡ ○建築経費36514,000円である。

給食センター職員

所長1名、栄養士(県費職員)1名、事務職員1名、運転手2名(内1名嘱託)、給食婦8名、
 所長昭和47年12月より昭和52年3月まで正岡昭二

昭和52年4月より小黒留吉

5. 社会教育

(1) 久万町合併後の社会教育

社会教育の拠点となる公民館は、昭和23年5月に下畑野川部落公民館が建設されたのにはじまり、昭和25年（1950）までに川瀬地区では4つの独立公民館が建設された。久万地区では昭和28年から32年までに3つの公民館が、父二峰地区では昭和25年に養蚕会堂を改造して露峰公民館が建てられていたが昭和31年に改築し、昭和32年までに4つの独立公民館が出来た。これで町内11の公民館は揃って活動に入ったわけである。

昭和34年3月、三か町村の合併に伴い新しい久万町としての町づくり運動に引継がれることになった。合併当初の社会教育は、新しい町づくりを实践する人づくりが目指されたのである。この年に社会教育関係の条例、規則等が制定せられ、新町づくりに向けられた。社会教育関係団体である青年団、婦人会の組織は、合併後の2年間を旧町村単位の活動として継続しながら組織の一体化をはかる準備を進め、昭和36年両団体とも創立総会が開かれ、町一体の組織が誕生した。この頃から農家人口の縮少をはかるために二、三男対策が論議せられるようになり、社会教育も青年対策の方向へと進んだ。また婦人会を中心に家族計画の学習も盛んに行われたが、やがて昭和38年の豪雪や国道33号線改修工事などの影響が人口流出に拍車をかけることになった。

昭和40年代に入って、都市と農村の所得格差の問題、過疎現象等と相まって、町の将来を憂慮するようになり、大学教授や識者多数の指導を仰ぎ対策に取組んだ。昭和42年（1967）頃から一般行政、教育活動が一体となって地域の課題解決にあたらうとする総合社会教育の重要性が叫ばれるようになった。そして昭和43年に総合教育推進町の指定を受け、総合活動に取組んだ。総合教育では、体力づくり活動、社会道徳の高揚、政治教育、生産教育の四つの推進目標を掲げ、組織活動の総合化をはかり、小部落学級等で末端浸透をはかってきた。昭和46年には「急激な社会構造の変化に対応する社会教育のあり方」と題する社教審の答申が出され、社会教育の方向は学校、家庭、社会教育が一体となって生涯教育的見地に立って推進しなければならないと示された。久万町ではこうした問題提起をふまえて、昭和47年度より幼児、少年、青年、成人男、女、高令者と各時期の学習条件を整備して、各種学級、講座、研究会などを各層の連携のもとに進めてきた。特にこの年度から中央、地域の教育実践を強化するために町社会教育講師団を編成して指導助言を得ることにした。また昭和48年頃から国民的課題としての同和教育の重要性が叫ばれるようになり、学校、社会教育指導者の研修会を開いて、同和教育への正しい認識と差別解消の实践に取組んだ。PTA、公民館における同和教育は年々地域へと広がりを見せてきた。この年から社会教育委員を20名に増員しその態勢を強化した。

この年10月に「久万町民館」が建設され、11月から開館運営されることになって、今までの施設不足が解消せられ、町民の学習とコミュニティづくりの場として大いに活用されることに

IV 香り高い文化の町づくり

なった。この町民館は、久万町中央公民館も兼ね、指導者研修、各種学級、講座をはじめ、趣味を同じくする愛好者グループが次々に誕生して定期的な練習が繰返されている。昭和49年10月には、香り高い文化の町づくりを目ざした第一回目の久万町文化祭を開き、小中学校から高令者に至る幅広い町民の作品展示、日曜日の日をかけて郷土芸能発表会を催し賑わった。

この年から毎年「林業まつり」と時期を同じくして「久万町文化祭」を開いている。

昭和49年（1974）12月、社会教育に男子成人の組織をと「久万町壮年会」を結成し、青年、婦人に依存していた社会教育が30才から60才までの男子壮年に拡がり活発な活動となってきた。

昭和50年には、現代社会に対応した教育方法を取り入れるため、600万円を投入して「久万町視聴覚ライブラリー」を設置した。以後毎年180万円から240万円の視聴覚機材、教材を充実している。視聴覚機器は、眼で見ることができるとともに学習者に興味を持たせ、学習プログラムに変化があって人の集まりをよくすることができるので大いに喜ばれている。

昭和50年10月、高松市で開かれた体力づくり全国大会の席上、団体の部で、久万町体力づくり推進協議会（会長は町長、昭和43年7月23日発足）が体力づくり日本一として、内閣総理大臣表彰の栄に浴することができた。これは町民あげての体力づくり活動に大きな成果をあげたことが国において高く評価されたためである。

昭和51年1月、12の部門からなる「久万町体育協会」が結成され、町民の体力づくりを更に推進することができるようになった。体協は、県体協にも加盟し、毎年各種目別の町内大会を開催し、種目ごとの底辺拡大に努めている。またこの年には、地域からの強い要望に応じて、畑野川小学校、直瀬中学校、父二峰中学校各グラウンドに1KW水銀灯24灯から42灯の夜間照明施設を設置し、既設の施設とともに地域開放を行い、毎夜のごとく利用されるようになった。また若い人から高令者に至る幅広い層の人たちに軽スポーツ等を指導し、地域のコミュニティづくりと体力づくりに成果をあげている。

昭和51年に新規事業として取り上げた「工作と遊びの教室」は、学校、社会、家庭の有機的連携をはかり、手づくりの良さ、昔からの純朴な遊びを高令者から子どもに伝えようとするもので、非常に人気があった。これは、昭和49年に「在学青少年に対する社会教育の在り方」について、社会教育審議会が建議を行い、その具体的な取り組みとして行われたものであり、その後毎年開設している。

昭和52年6月には、「久万町文化協会」を結成した。文化協会は22部門からなり、趣味と生きがいを深め仲間をつくることのできるという個々の目的に合致したもので、年々活発になっている。特に52年度は、町内5会場を巡回して、種目別芸能発表大会を夜間に開催してきた。

昭和53年（1978）は、久万町合併20周年の記念すべき年を迎え、あらゆる教育活動のなかで20年の意義を確認し、これからの方向づけを行うことにしているが、特に社会教育に積極的な参加を求める活動、公民館の振興、文化活動、体力づくり活動が町民ひとりひとりの温かい心を育て、連帯意識を培うために役立つことを切に願うものである。

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(2) 公民館と成人教育

昭和34年(1959)3月、旧久万、川瀬、父二峰三か町村合併後の公民館活動の課題は、三か町村のレベルアップと新しい町づくりへの住民意識を啓培することにあった。そのために各種組織及び行事の一体化を段階的に進め、新町民主政治の基礎をしっかりと築くことを目標とした。すでにこの年には、町内の全域に11の独立公民館が建設されており、各公民館を巡回して、新しい町づくりの懇談会が開催せられ、公民館は人集めにあたり、行政と住民の橋渡しに果たした役割は実に大きかったのである。

これらの公民館は、地域住民や民主団体等の出役或は金品持ち寄りなどによって建設されたこともあって、地域の特色を生かして自主的な活動に取り組んでいたが、同年5月に公民館設置条例を制定、続いて7月には公民館管理運営規則、中央公民館運営審議会規則などを制定して部落所有の公民館は、すべて町へ移管され、館長、主事の任命、役職員の選出等、新しい公民館体制を整えた。

現在の久万公民館は中央公民館として位置づけ、館長には町長がなった。専任主事は中央、久万、明神、川瀬、父二峰に各1名の計5名を配置したが、昭和36年には主事1名が中央公民館に増員され、中央、地域で調和のとれた活動が展開されるようになった。

昭和35年の農業基本法が制定されてから農業振興の担い手となる住民の意識づくりや婦人会を中心に家族計画の学習会等が公民館で熱心に開催され研究が深められていった。

昭和38年7月からは教育委員会事務局を役場(新庁舎)へ移して社会教育行政を強化し、中央公民館では、専任の館長、主事を置いて社会教育事業を進めてきた。

昭和40年(1965)4月には、久万公民館を分館とし、中央公民館は主事とともに役場へ移し館長を教育長が兼務することになった。久万公民館の主事1名を残して、その他の主事は全員中央公民館勤務とし、地域担当、機能担当を明確にして事業実施に取り組んだ。

昭和40年代に入っの公民館活動は、中央でも分館でも成人教育に力を注いで学習を継続したが、人集めにはやはり役員が苦勞しているようであり、今後の意識の高まりが大きい課題となっている。

昭和44年頃から中央で6～8日間夏期成人講座を開いてきたが年々受講者も増え、現在の町民大学に引継がれてきた。また、中央から講師を迎えての夏季大学も毎年1回開講してきた。そして学習意欲のある成人に学習の場を提供してきたのである。

昭和46年4月に社教審の答申が出され、社会教育の方向が生涯の各時期をよりよく生きる学習推進におかれ、公民館の果たす役割はますます重要となり、公民館の積極的な取り組みが強く要求されるようになり、この頃から出かける社会教育が実践されだしたのである。

昭和48年10月、久万町民館が落成したのを機会に、ここを中央公民館とし、久万、川瀬、父二峰の三つの公民館連絡協議会を組織し、11分館とともに、それぞれの範囲で課題解決への活動を進めることにした。さらに11公民館の下に地域公民館を指定した。最も小規模の組を対象に、部落集会所を地域公民館と呼ぶことにしてその地域の課題学習を継続することにしたので

IV 香り高い文化の町づくり

ある。地域公民館は一地域を2年間指定して若干の育成費を出しているが、常会の復活ともなり、組では夫婦揃って学習に参加するところもあって、身近かな課題学習に熱が入っている。
①中央公民館、②地区公民館連絡協議会、③公民館（分館）、④地域公民館の機能と活動展開を久万町では「公民館の四段階方式」と呼んでいる。

昭和40年代後半から50年代に入って、公民館がコミュニティづくりの拠点として、地域住民の課題解決に大きな役割を持つようになった。また、体育活動はかなり活発に行われていたが地区内住民の心と心を結ぶ活動として文化活動、たとえば吟詠、民謡、舞踊、万才などが盛んに行われるようになり、公民館が生きがいを高める場となっているのである。

昭和51年（1976）2月、明神公民館で開催された久万町公民館振興研究会において、日常生活を見直して、改善できることは改善しようと生活改善推進が申し合わされた。その後、公民館の関係諸会合のたびに、改善推進の具体策を検討してきた。その具体策として結婚改善をおし進めることになり、久万町結婚改善要綱を制定し、会費制結婚式を進めることになった。

昭和51年7月伊方町中央公民館と久万町中央公民館は、海と山の環境の違いを長所としてお互いに研修しようと姉妹公民館の契を結び、毎年交流研修を実施しているが、伊方町の生活改善は、人間生活にかかわるあらゆる事を取り上げて運動を進めており大いに参考となった。久万町でも結婚改善と葬儀の改善、見舞金の改善運動に取り組むことになり、昭和52年には、お祝い用、お悔み用の袋を久万町生活改善推進協議会で作成して、実費頒布を行っており、結婚や葬儀の際にはけん垂幕を吊ってPRに努めている。こうした努力が浸透して、実践目標に沿って改善の効果が上っており、公民館活動にも成果がみられるようになった。

久万町公民館連絡協議会長

年 度	41	42	43 ~ 44	45 ~ 46	47 ~ 52	53 ~
氏 名	光田 繁光	山之内 肇	渡部 新雄	神野 寅雄	菅 留八	石丸 亨

久万町公民館長・主事

館名	年 度	館 長	年 度	主 事	館名	年 度	館 長	年 度	主 事	
久 万 公 民 館	昭和34年度	相原 芳太	昭和34年度	土居 重喜 (常勤)	野 尻 公 民 館	34~35	八木修一郎	34~35	奥村 進	
	34~35	山之内敬義	34~38	山口伊佐雄 (常勤)		36~44	奥村 進	36~46	真木 孝志	
	35~43	大田 正志	38~46	日野 嘉彦 (常勤)		45~52	菅 留八	47~48	和田 正	
	44~	神野 寅雄		菅 恒治		53~	山本 博行	49~52	梶川 二郎	
				中里 史郎				53~	真木 孝志	
			46~47	正岡 昭二 (常勤)		明	34~38	田中 執	34~40	小倉 貫 (常勤)
			47~48	窪田 正雄 (常勤)		神	39~44	山之内 肇	39~44	金子佐々雄
			48~50	松尾 良昭		公	45~50	金子佐々雄	45~50	露口 靖
			51~52	河合 朋茂		民	51~	大野 義雄	51~52	菅 秀夫
			53~	永井 修一		館			53~	坂本 修

IV 香り高い文化の町づくり

館名	年 度	館 長	年 度	主 事
下 畑 野 川 公 民 館	33～34	織川 誠	33～34	佐伯 公康
	35～37	西山 勇	35～38	山崎 時雄
	38	西森 匠	38～42	日野 益博
	39～46	渡部 新雄	43～47	西山 保
	47	大西 武志	48～52	日野 政隆
	48～50	高橋 頼雄	53～	名智 清澄
	51～52 53～	渡部 文男 日野 朝幸		
上 畑 野 川 公 民 館	34～38	小倉 清	33～34	渡部 盛勝
	39～42	石田多美雄	35～36	山内 晃
	43～45	尾花 豊	37～38	高木 富平
	46～50	渡部 昭一	39～40	渡部 淳一
	51～	石丸 亨	41～42	渡部 武徳
			43～44	高木 富平
			45～46 47～48 49～50 51～	小倉 富栄 上岡 浪雄 渡部 武徳 八塚 賢三
上 直 瀬 公 民 館	30～34	小椋 秀雄	30～34	小倉 達郎
	35	小倉玄三郎	35～36	大野 卓
	36	菅 良太郎	37～38	小倉 達郎
	37～38	大野 卓	39～40	大野 良一
	39～43	石丸 剛	41～42	長山 哲三
	44～46	菅 涉	43～44	長山喜久雄
	47～48	石丸 正助	45～48	宮岡 貢
	48～49	大野道太郎	49～	平岡新太郎
	50～	菅 良太郎		
下 直 瀬 公 民 館	31～34	光田 繁光	31～34	石崎 源蔵
	35～36	菅 利三郎	35～36	岡 作太郎
	37～38	菅 万太郎	37～38	菅 俊三
	39～40	石崎 源蔵	39～46	板崎熊太郎
	41～47	光田 繁光	47～48	松本 鶴三
	47～48	菅 万太郎	49～50	山内 茂一

館名	年 度	館 長	年 度	主 事
下 直 瀬	49～50	菅 利三郎	51～52	菅 高夫
	51～	曾我 定之	53～	渡辺 文夫
二 名 公 民 館	32～36	久保米四郎	32～36	高岡 信栄
	37～39	竹井 薫	37	木村 道雄
	40～45	日野 秀雄	38	岡田 元一
	46	岡田 元一	39	日野 秀雄
	47	竹内 友長	40～42	土居 康男
	48～50	久保 敞	43～46	西山 潔
	51～52 53～	中田 重雄 窪田 伝嘉	47～50 51～52 53～	小松 孝 高岡 稔 和泉 司人
露 峰 公 民 館	33～36	恩地 義一	34～40	大野 勘蔵
	37～39	田中 武雄	40	恩地 繁
	40	川本 道宗	41～44	坂本 富保
	41～46	西岡 忠義	45～46	恩地 繁
	47～50	大野 勘蔵	47～50	中岡 登
	51～52	西岡 忠義	51～52	村田 勝
	53～	中野 優	53～	中野 徹彦
父 野 川 公 民 館	30～35	上岡 照雄	32～39	河野 幸義
	36～37	玉水 義浦	40～42	玉泉 猛
	38～39	河野 常喜	43～48	中野 久
	40～42	河野 幸義	49～50	上岡 保
	42～48	玉泉 猛	51～52	黒田 富男
	49～50	佐伯 幸男	53～	岡田 弘
	51～52 53～	中野 久 玉泉 猛		
落 合 公 民 館	34～35	中田 千鶴	34～36	岡部 義信
	36～37	大野 薫男	37～44	三輪田輝光
	38～46	上野左衛門	45～48	橋本 猛
	47～48	大野 薫男	49～50	坂本 懸一
	49～50	三輪田輝光	51～	西本 隆雄
	51～	武田 持		

(3) 乳幼児教育

久万町における幼児教育のはじまりは、昭和28年(1953)に畑野川婦人会の活動として、畑野川小学校で実験的に開かれたものである。名称も「幼児学級」として1週間1回の開設であった。その後各町村に拡がり、婦人会の手で運営していたが、経済的に行きづまり、町や村へ移管することになった。

昭和34年3月、町村合併によって、新久万町に引き継がれることになり、同年7月には久万町立幼児学級運営要項を決定して、全幼児学級が同じ運営をすることになった。

すでに独立園舎を持っていた久万幼児学級は、すぐに全日制に切り替え、昭和35年(1960)4月1日、久万町立幼稚園となった。

昭和37年には、明神と二名の幼児学級が全日制に切り替えられ、昭和39年には残る畑野川、直瀬、露峰の各幼児学級が全日制となって本格的に幼児教育が進められるようになった。園長、所長はそれぞれの小学校長に委嘱して運営にあたってきた。

昭和37年10月に二名幼児学級が二名へき地保育所となって2年保育が実施されるようになり、その後直瀬、露峰、明神、畑野川と次々にへき地保育所となって、久万幼稚園を除く他の幼児学級はすべて2年保育が実施されるようになった。この頃は、有資格保母が少なく1保育所2名の保母のうち1名は無資格保母であった。従って保母の研修は、町内でも、郡内でも重要視され年3～4回開催された。

幼児数の減少によって、二名、露峰保育所では、昭和45年(1970)から、3才児を含めて3年保育を実施することにしたが、それでも他の地区から比べて幼児数は多くはなかった。

昭和47年度から、国の方針によって、家庭教育学級を開設することになり、3～5才児を持つ親を対象にして久万幼稚園、他の5保育所で年間6～7回開いたが、参観日と併設したことで参加率は非常によかった。生涯教育の点からも家庭教育は教育の基本として重要でありかなり熱心に研究がすすめられた。

昭和47年には、久万幼稚園も2年保育を実施することになり、教諭の定数も4名増して8名となった。これで町内の幼児教育施設はすべて2年以上の保育を行うことになり足並みが揃ったのである。

昭和48年度から、文部省の就園補助制度が設けられ、町民税の所得割非課税世帯の入園料、保育料を免除することにした。これにともないへき地保育所も同じ取り扱いとした。この結果免除世帯は約80%にもなった。

昭和51年(1976)から、久万幼稚園では、乳幼児学級を年間10回開催して父母の研修につとめた。この学級は、父母から意見を出させて考え合おうとする運営方法をとってきた。

昭和52年4月、愛媛県には、教育委員会事務局に幼児教育室が新設され、幼児教育の振興をはかることになった。久万町では、1幼稚園、5保育所であったが、昭和53年4月1日から、明神、畑野川、直瀬の3保育所を幼稚園に切り替え、運営することになった。また、久万幼稚園舎は、近代設備をそなえて昭和52年度末に完成、7月には全国大会も行われた。

IV 香り高い文化の町づくり

(4) 青年教育

昭和34年(1959)の町村合併と同時に久万町青年団協議会が発足し、組織を一本化するため各種の記念行事を実施した。そして2年後の昭和36年(1961)に「久万町青年団」を結成し、組織の強化と親睦を目的とした単位団訪問やスポーツ祭、駅伝大会を開催した。翌年には、体育活動と演芸発表会や女子研修会の文化活動とを織り混ぜた活動がなされた。

順調なスタートを切った久万町青年団の上部組織である郡連青は、昭和38年(1963)県連青の運動方針を問題にしてこれを脱退、解散したが、久万町青年団の慣行的な活動は続けられ、昭和40年(1965)には、愛媛駅伝に初めて参加した。この頃から、団員数の減少により、演芸活動は衰退し始め、スポーツ活動が多く取り入れられるようになった。

昭和42年(1967)に、郡連青が再編成され、同時に昭和38年(1963)に発足した愛青連に加盟し、上部組織の混乱期は終わった。昭和44年(1969)には、他郡市団との交流に目を向け、重信町青年団と交歓会を実施するなど、学習活動に取り組むようになった。翌年には、久万町青年団陸上クラブが結成され、各種大会に積極的に参加し、久万クラブの名で親しまれた。

昭和46年(1971)には、第2回文化祭を実施し、文化活動への意欲を見せ、翌年には、中央青年講座を実施し、地域のリーダーづくりにつとめた。昭和48年には、社会の進展に伴った青年の意識の変化による活動のマンネリ化等の問題をかかえて、大幅な団則改正がなされた。団員相互のつながりを強めるため分団訪問を実施し、機関紙も発行されるようになった。翌年には、女子バレーボールチームが県青年大会に参加し、活動を盛り上げた。

昭和51年(1977)には、新しく優勝旗と待望の団旗を購入した。Uターン現象のあおりで極端な団員の減少はなくなったが、結成当時350名いた団員が3分の1以下に減少した。翌年には、姉妹公民館である伊方町の青年と交歓研修を行なった。

情報激動化の現代社会では、価値観の多様化により、多種多様な内容を持つ行事が要求され始め、画一的な慣例行事で団員の活動意欲を満足させることは困難になった。青年団活動の適齢期にいながら参加しない青年への呼びかけ、広報活動の充実により、地域に根ざした魅力ある行事を実施し、郷土愛に満ちた青年団となるよう期待する声は大きい。

久万町青年団々長

昭和 34 年度	◎ 大野 隆則 大野 正照 宮脇 弘	久万	39	正岡 邦夫	明 神	47	中岡 峰照	久万
		川 瀬	40	大野 良一	直 瀬	48	日野 修三	畑野川
		父二峰	41	渡部 清美	畑野川	49	古田 邦博	久万
35	◎ 菅 高夫 真木 孝志 玉水 寿清	川 瀬	42	窪田 正雄	明 神	50	鈴木 正登	明 神
		久万	43	西尾 道尊	父二峰	51	鈴木 洋一	〃
		父二峰	44	岡 信一	畑野川	52	〃	〃
36	大野 弘	明 神	45	山本 信久	久万	53	宇都宮 正	父二峰
37	大野 健二	〃	〃	坂本 好直	明 神	◎ 協議会長		
38	井上 徳義	久万	46	松岡 功	父二峰			

(5) 婦人教育(婦人会)

昭和34年(1959)町村合併によって、婦人会活動は新たな局面をむかえた。すなわち、今までの旧町村の組織をどのような形で、新しい久万町にふさわしい組織へ、改革していくかという問題である。先づ、昭和34年5月に、各単位婦人会の代表者が集まり、統合準備会を開き、6月26日に結成大会を開催した。その結果、できるだけ早く町一本の組織をつくる事を確認した。ひとまず、旧町村婦人会は、協議会を結成して新方向への態勢をととのえた。

昭和35年、はじめての婦人運動会が、地域婦人会と農協婦人部の合同主催で、親睦と体力づくりを目標にして、千本グラウンドで開催されたが、翌年から10年間地域婦人会だけとなり、各地区持ちまわりで行われ、昭和46年(1971)から、また合同運動会を開催することになった。

昭和36年(1961)には、明神、久万、川瀬、父二峰の旧婦人会を発展的に解散させて、久万町婦人会を組織した。そして、第一回久万町婦人大会が開催された。その後の婦人会活動は、時代の進展とともに、これにマッチした内容のものが取り上げられ、実践が積み上げられた。

昭和38年、生活改善運動推進協議会が、生活運動推進協議会と改称、個人の知識や努力では解決できない生活課題の解決のために、生活の主張、生活と経済、社会連帯感の三点を強化する運動を開始した。この運動は婦人会と表裏一体の形で進められた。

昭和41年頃になると、社会の構造的変化が生じ、この社会変ぼうに対応できる婦人像が要求され、その実現に向かって活動した。主婦として、家庭管理に知恵と工夫が、また、魅力ある妻、信頼される母親が求められるようになり、この要求を反映して、豊かな家庭・明るい人間・健康な身体・住みよい町・楽しい組織づくりなどの学習が中心に行なわれた。

昭和42年には、支部活動に重点がおかれ、1学級1課題を重点に、婦人学級をもとに、婦人教育の底辺拡大をめざして活動した。環境美化運動の一つとして、各支部ごとに河川清掃を行ったり、他団体との連携体制づくり、リーダー研修会、貯蓄推進や家計簿の記帳と共同購入など、年間を通しての学習活動が進められた。

昭和47年からは、役員会と合わせて婦人大学を開催した。社会に対応するための広い視野と感覚を学び、指導者としての心構えを強め、自主的活動が活発になるような婦人会をめざした。

最近、産業経済の多種多様化にともない、婦人が各種の職業に就いたり、仕事を持つようになった。また、婦人会組織は、あらゆる機関、団体から要請される活動が多くなり、多忙なために役員になり手がなく、末端組織は弱体化しているため、後継者養成が今後の課題である。

久万町婦人会役員

年度	職名	氏名	年度	職名	氏名	年度	職名	氏名	年度	職名	氏名
34	協議会長	小椋 ヒデ	35	協議会長	小椋 ヒデ	36~39	会 長	小椋 ヒデ	45	会 長	土居 千重
	久 万	越智とみ子		久 万	片岡 光子	40~41	〃	岡田 時子	46	〃	土居ノリエ
	明 神	西内すみえ		明 神	橋 くに子	42	〃	秋田タマ子	47~50	〃	小田 絹子
	川 瀬	小椋 ヒデ		川 瀬	名智 馥子	43	〃	土居 千重	51~	〃	小倉 幸子
	父二峰	高岡 尚		父二峰	岡田 時子	44	〃	大野キクエ			

IV 香り高い文化の町づくり

(6) 壮年教育(壮年会)

昭和46年(1971)社会教育審議会では、急激な社会構造の変化に対処する社会教育の方向は、生涯教育であり、生涯の各時期の必要課題に真剣に取り組まなければならないと示唆している。成人とは、一般的に言えば社会的な独立と責任とを完全に公認される時期以後のひとびとだといわれている。そうした成人にとって学習の機会が公民館で行われる既製プログラムによるところである。それは組織的な活動ができなかったからである。

久万町では、地域でも、家庭でも中核となる壮年(30才~60才の男子)層の自主的組織を結成して再生産に必要な知識、技能を広く身につけ、閑暇時の文化吸収と仲間づくりを推進し、地域における新しい連帯意識の醸成につとめ、明るく住みよい町づくりの実践力を培ってもらおうと「久万町壮年会」を結成する運びになった。

昭和49年11月14日、各地区から壮年会結成準備委員37名が参加して町民館ホールで準備委員会を開催した。この日は、壮年会結成趣意書、規約案、事業計画案、結成大会の期日などについて相談が行われ、この日参加した準備委員が会員を誘って12月15日の総会に参加することになった。準備委員の熱意によって、会員募集も順調に進み、約700名の会員が加入した。

結成大会は、会員約140名が参加し、自分達の会の方向を決めるために熱のこもった意見が述べられ規約、綱領、事業計画を決定して、めでたく久万町壮年会が誕生したのである。

結成後の壮年会では、早速、壮年バッチの図案を広くから募集した。バッチはタイピン兼用として1個500円で会員に頒布した。

昭和50年から本会では、教育委員会と共催で昼間壮年大学を6回開講したが、忙しい仕事を持っている人が多く、受講者の確保が非常に困難であり、昭和51年からは、町民館で夜間3回、昼間1回、分会巡回は久万を除いて4分会へ各1回として開いている。壮年会の事業や壮年大学の前には、必ず「壮年会実践綱領」を全員で唱和することにしており、これは気合が入って非常によいことであると会員によろこばれている。

昭和52年度からの総会には、総会行事のあと、分会対抗銘柄あてきき酒コンクールや懇親会も持つようにして、なごやかな雰囲気仲間づくりもできている。

昭和52年度からは、「壮年手帳」を作成して全会員に配布しているが、使い易いということで好評を得ている。

また、壮年会は、本会1、分会5で組織しているが、5つの分会とも、それぞれ特色ある計画を組んでおり、なかでも町理事者を囲む町政研究会、地元議員を囲む地域づくり座談会、農協及び森林組合役員を囲む地域の産業研究会のほか体育行事では、地下タビソフトボール大会、花見、月見など多彩な事業を組んでいる。

壮年会では機関紙「つながり」を年に4回発行し、会員相互の心のつながりを深めることに役立たせており、活動内容は誠に好ましい方向へ進んでいるといえる。これからは、組織内の混乱をなくし、各分会が良い意味で競争してほしいと希望するところである。

久万町壮年会役員

(本 会)

年 度	会 長	副 会 長	事 務 局 長	監 事
49～52	高岡 晋作	渡部 新雄 大野 和一 関井 義弘	大野 隆則	山之内正昭 和泉 司人
53～	岡田 元一	佐伯 正俊 小倉 清 高岡己年男	大野 隆則	菅 秀夫 石丸 剛

(分 会) 昭和49年度～昭和52年度

役 名	久 万 分 会	明 神 分 会	畑 野 川 分 会	直 瀬 分 会	父 二 峰 分 会
分 会 長	佐伯 正俊	加藤 学	小倉 清	高岡己年男	三輪田輝光 岡田 元一
副分会長	大西 利康 大野 宏之	古田 実 小倉 敦男	日野 朝幸 稲田 實	板崎角太郎 石丸 剛	大野 勘蔵 久保 徹 佐伯 幸男 俊成 良一
事務局長	真木 孝志	露口 靖 窪田 正雄	渡部 文男	高岡 文雄	玉水 寿清
監 事	二宮基八郎 目戸 猛彦	大野 福美 森川 照雄	渡部 昭一 高橋 頼雄	日浦 正明 小倉 達郎	白石 優 土居 康男 土居 守 橋本 猛

昭和53年度～

役 名	久 万 分 会	明 神 分 会	畑 野 川 分 会	直 瀬 分 会	父 二 峰 分 会
分 会 長	山之内正昭	古田 実	渡部 文男	高岡 文雄	西岡 忠義
副分会長	菅 留八 大堀 静	菅原 進 大野 義雄	高橋 頼雄 石田多美雄	小倉 達郎 菅 俊三	神西伊佐男 中野 久
事務局長	鈴木 知郎	窪田 正雄	渡部 昭一	大野 玉雄	玉水 寿清
監 事	矢野 計雄 大北 利朗	菅 秀夫 石丸 一清	石丸 亨 日野 朝幸	菅 重雄 山内 茂一	福水千代重 山之内 保

(7) 高令者教育

我が国における家族制度は、だんだん核家族化となり、老後を子どもや孫と共に過ごす大家族主義が姿を消している。老令による身体の欠陥や生活手段の喪失等から、孤独感、経済的、精神的不安を抱かせることが心配されるようになった。特に農村では、若い労働力が流出し、高令化社会に突入し、種々の対策に取り組まなければならないという問題が起きてきた。

そこで高令者の社会教育が必要となってきたのである。また、来るべき老後をいかに生きるかは、今日の課題として考えなければならない重要なことからである。

久万町では、昭和32年(1957)旧久万に老人クラブが誕生し、その後各地域に老人クラブが結成され、奉仕作業や自己研修に努めている。

昭和47年(1972)、高令者の社会教育が遅れていたこともあって、高令者の集団学習として久万町明治青年大学を開設した。この大学は、高令者の持っている知識、技能を、現代感覚に再教育することと、高令者のコミュニティづくりを進めることにもなり、この年は久万町独自の予算を計上して開設した。受講者も各老人クラブの中で、学習意欲を持っている人を推せんしてもらい70名を確保し、年8日間をあてたのである。講座の内容は、健康問題特に長寿の秘訣や、豊かな人生、社会の動きと国民生活のあり方、エチケット、社会における老人の役割などについて学習した。また1日は自動車を借り上げて、松山方面へ現地学習を行い、生涯教育施設などを中心に見ることができた。参加した高令者には来年も受講したいともらすなど意欲

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

に満ちたものである。

昭和48年（1973）も、第二回目の明治青年大学を開講した。この年は、町づくりの方向を知るために、郷土のおいたち、久万町振興計画、社会の動き、これからの農業、心身の健康管理などについて学習した。特にこの年は、孫の学習を知ろうと久万小学校へ出向き、教育機器を使つての学校教育を見学し、昔と今日を比較することができた。この年から文部省では、高令者教室開設費補助をつけるようになった。

昭和49年（1974）には、一般教養とあわせて、趣味別専門コースを取り入れ、俳句、盆栽、楽焼きを希望によって取り入れて実習を行い喜ばれた。また、現地学習では、県的生活センターを見学し、食生活のあり方や、衣類の管理など日常生活に役立つことがらについても学習した。毎年受講希望者は増え、うれしい悲鳴をあげているのが実情である。

昭和50年（1975）からは、専門コースに民謡、詩吟も加えて、受講者の学習要求に応ずることとした。

昭和52年（1977）から現地学習は、お四国コースとして、四国霊場88カ寺を巡拝することにしており、高令者の持っている生きがいを、この大学では大いに感じとってもらうことにしている。

昭和53年（1978）には、高令者教室の明治青年大学を開設して運営するとともに、町内で25名の希望者を募り、高令者人材活用事業に取り組んでいる。この事業は、高令者の持っている専門的技術を再教育して、高令者の指導によって社会教育を進めようとするものである。特に子ども、青年、婦人と高令者とのかかわりを強化して事業の推進がはかられている。

高令者教室に参加する人たちは生き生きとしており、仲間ができることや、幅広い学習を進めることによって、自己を豊かにし町づくりや地域づくりに役立てられることを確信して止まないところである。

（8）広報活動

昭和34年（1959）の三か町村合併のとき、川瀬、父二峰地区には有線放送施設が整備されていた。昭和36年（1961）には、久万地区に出力500W、トランペット方式の有線放送施設を総工費300万円で新設した。昭和37年（1962）老朽化した明神有線放送を総工費290万円で出力450Wに大改修が行われた。昭和39年（1964）総工費225万円で父二峰地区の外柱、外線の修繕工事を行う。同年45万円で嵯峨山地区の有線放送を新設した。昭和41年（1966）横谷地区の本体を増幅改修した。昭和43年（1968）120万円で父二峰地区の本体を450Wに改修した。その後、昭和44年（1969）から53年度まで毎年地区別に改修工事を行っている。これらの有線放送は、一般行政の伝達、教育放送、農事放送など迅速な利点を生かして活用されている。

「広報くままち」は、公民館報と一般行政広報を兼ねて毎月1回、4000部を発行し全戸へ配布している。県下の広報のなかでも内容が充実している点で度々のコンクール入賞に輝いている。

(9) PTA

久万町各小中学校PTA、保育所、幼稚園の父母の会はそれぞれの節度を守りつつ学校教育振興のために積極的に協力している

そのことが教育者の志気を向上するためにも大変役立っていると思う。

○研修活動

各校は教師や郡内外の適任者を講師に招聘して研修会を持っている。

久万小中学校、明神小学校の3校は3校連結会をもって3校交代で優秀な講師を招聘して講演会を持っている。

尚年1回程度各PTAは部外の優秀な学校を1、2校他校参観している。

○教育活動

幼稚園、保育所の父母の会、小中学校のPTA共に月1回程度の参観日、家庭学級を持って学校教育に理解を深め学校教育活動に協力すると共に学校教育と家庭教育の調和に努力している。特に二名小学校ではPTA中心となり年1回夕涼み大会を開催し、全校児童、地域住民一体となって花火大会、キャンプファイヤー、演芸大会などを開催して郷土愛の育成、活気のある学校生活づくりのために努力している。

久万中学校PTAは夏季休業中非行防止のために交代で夜間見まわりを実施し、プール使用については各校PTAは休業中に監視員になり水難事故防止に協力している。

○整備活動

教育諸条件整備についても各校PTAは積極的に努力している。特に完全給食の実施、環境整備のための奉仕活動、中学校における体育後援会活動などは毎年どの学校も実施している。直瀬小中PTA－校旗寄付、プール建設協力、校訓碑、国旗掲揚台寄付その他施設設備寄付。畑野川小中PTA－プール建設協力、楽器、柔剣道施設寄付その他施設設備寄付。明神小学校PTA－プール建設協力、校旗寄付その他施設設備寄付。久万小学校PTA－プール建設協力、放送設備その他施設設備寄付。久万中学校PTA－プール建設協力、考える人設置寄付その他施設設備寄付。父二峰小中PTA－前庭、校門設置寄付、根の碑寄付、プール建設協力その他施設設備寄付。二名小学校PTA－プール建設協力、倉庫建設寄付その他施設設備寄付。

昭和38年度に町内PTA相互連結して教育振興に寄与するために、久万町PTA連結協議会が結成され、毎年5月に総会が開催されると共に昭和45年度より毎年久万町PTA研究大会が開催されることとなった。

尚PTA、婦人会が中心となって昭和45年度より毎年新就職者激励会を開催している。

久万町PTA連絡協議会長

年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名
38	高岡 信栄	40	東田数太郎	42	日野 朝幸	46	竹内 友長	48 49	佐伯 正俊	52 53	高橋 卓良
39	石丸 亨	41	西岡 忠義	43 45	加藤 学	47	奥村 進	50 51	大野 隆則		

45年には東田数太郎、52年には佐伯正俊が日本PTA全国協議会長より表彰される。

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(10) 同和教育

明治4年(1871)8月28日、太政官布告第61号で「えた、非人の称を廃止する。今後は身分、職業とも平民と同じようにする」という、いわゆる「解放令」が出された。この解放令によって、すべての国民はみな平等となったのである。しかし、差別の実態は何らも変わりなく存在したのである。大正11年(1922)3月3日、京都において全国水平社創立大会が開かれ、ここに同和地区住民の自発的運動を展開し、長い間の差別と迫害に対して同和地区の人々自らの力によって、人間としての権利を誇り高く宣言するに至ったのである。これが解放運動の前身となったのである。その後毎年全国水平社大会が開かれ、自らの運動方針を決定するとともに外部や、関係省庁へも働きかけてきたのである。が、戦争激化とともに挙国一致によって国難にあたることになった。

昭和20年(1945)、終戦とともにポツダム宣言に基づき、日本の政治、経済、社会の民主化をはかってきたが、昭和21年11月3日に公布され、翌年5月3日から施行された日本国憲法によって、国民の基本的人権を尊重すると明記されたことは、部落解放運動を進める上で大きな支えとなったのである。昭和27年の部落解放全国代表者会議において、差別を今日まで残してきた原因は、差別を個人の問題としてとらえ、同和地区の生活実態を改善しようとしなかった行政の責任であるとして、具体的な施策をうち立てさせる運動を展開した。こうした動きのなかで、昭和28年には全国同和教育協議会が結成された。

昭和35年頃から、愛媛県では、全県民の課題として取り組む同和教育は「対話と協調」を基本理念として運動を進めることにした。また同和教育を更に積極的に進めるようになったのは、昭和36年、内閣総理大臣の諮問が行われ、昭和40年に「同和对策審議会答申」が出され、この年以降の同和教育は、この答申の完全実施をめざして展開されるようになった。

昭和44年(1969)6月「同和对策特別措置法」が制定せられるや、同和問題の解決は、国民的課題としてすべての人々が取り組まなければならないようになったのである。

久万町でも、この頃から学校、社会教育関係者の研修がもたれるようになり、昭和49年9月には、久万町同和教育協議会及び久万町同和对策協議会を結成して、協議会を中心として久万町の同和教育推進方策を定めて、それぞれの分野で浸透をはかってきた。

学校教育では教師の研修、社会教育では関係機関団体の役員をはじめ指導者の研修を毎年開催したが、昭和51年度からPTAを対象に、校区別同和教育懇談会を開き、子どもと共に正しい認識を深める学習がもたれるようになった。社会教育の場である公民館においても、映画などを教材として同和教育講座を開いてきたのである。今日も同和問題の解消が一日も早く実現することを願って絶えぬ努力を続けている。

昭和53年度から久万中学校では、文部省の同和教育研究指定校となり、校内研究や地域との研究実践の提携をはかり、大きな成果を期待して真剣に取り組んでいる。

(11) 視聴覚教育

急激に変化する現代において、社会事象を正しくとらえて誤りのない判断をすることは、容易なことではない。学習と仕事は一体であり、誤りのない人生を歩むためには、人間はその一生を通じてあらゆる場所であらゆる機会に学習しなくてはならない。

この生涯教育の観点から視聴覚教育の重要性を認識し、豊かな人間づくりのための視聴覚教育の向上発展を目標として、昭和50年(1975)4月、久万町視聴覚ライブラリーを設立した。

視聴覚教育の拠点として、社会教育・学校教育の現場への機材・教材の供給、解説資料、広報資料の作成と配布、技術者養成のための講習・研修の実施、映写会、巡回指導、自作教材の制作、放送利用学習の開発に積極的に取り組んできた。

技術者養成の講習は、昭和50年に45名、昭和51年に22名、昭和52年に11名、昭和53年に29名、延べ107名が受講し、地域・職域で視聴覚教育の振興に一役かっている。

自作教材の制作は、手近かなVTRと保存的な8ミリ映画に区別して、年次計画にそって制作活動を進めている。

放送利用学習については、昭和51年(1976)に四つのコースで九回のテレビ利用スクーリングを開設し人気を集めた。翌年には、テレビ母親教室と時事問題教室を開設し、テレビ母親教室では、学級生が自らの手で番組を制作する段階にまで発展し、NHKのテレビ番組にも出演した。

久万町視聴覚ライブラリー自作教材一覧表

V T R 自作教材			8ミリ映画自作教材		
年度	題名	時間	年度	題名	時間
50	門出I(就職者激励会より)	30分	51	久万町少年式	45分
	公民館活動の記録	30		ころざし	20
51	村の保守党	30	52	はくら入野の子ども会	30
	芸能発表会(下畑文化祭)	60		木を育てる	20
	商工青年部の活動	30		伸びゆく久万町(政治・福祉)	30
	門出II(就職者激励会より)	20		”(産業・教育)	45
52	川瀬歌舞伎	60	53	良材の町久万町	60
	舞踊発表会	60		我が町の先覚者	20巻
	岩場の祈り(仰西翁より)	60	ふるさと文化財	30分	
	わか町の読書活動	20			
	楽しく学ぶテレビ母親教室	30			
	わたしたちの久万町	60			

IV 香り高い文化の町づくり

(12) 文化財・文化活動

文化財は、戦後のすきんだ気持ちや、外国の新しいものにあこがれた思想のはん濫で、とすると軽視される傾向にあったが、文化財の保存及び活用を図り、町民の文化的向上に資する目的で昭和36年9月16日「久万町文化財保護条例」を制定、委員6名（現在11名）を委嘱した。

この文化財保護委員会の設置により、有形・無形文化財、民俗文化財、記念物のうち、歴史上、芸術上、観賞上、学術上および生活の推移の理解上必要なものなど、価値の高いものを選び、指定して保存につとめている。昭和45年（1970）以降、毎年各地の綿密な文化財民俗資料調査を行うなど、文化財の発掘発見に力を注ぎ、地味な活動を展開している。

一方、町を挙げて文化の伝承に力を入れている。昭和43年（1968）、久万町合併10周年に際し、「久万町誌」と「10年の歩み」を発刊して以来「文化財物語」など10に余る郷土資料を発行したり、昭和52年（1977）からは、中学生を対象とした「ふるさと教室」や「ふるさと移動教室」を実施し、文化財についての啓蒙活動を行っている。また、同年7月、郷土の歴史をしのぶふるさと村が開村し、先祖が残した大切な遺産、手作りの文化財が展示されるなど、町民と行政が一体となった活動で、今後ますます文化財の認識が高まることになろう。

久万町の文化財

指定	指定年月日	分類	名称	指定	指定年月日	分類	名称
国	昭和19. 11. 7	名勝	古岩屋	町	昭和47. 6. 23	史跡	幽谷上人入定の地
県	昭和24. 9. 17	天然記念物	伊子すだれ自生地	"	" 47. 8. 25	工芸品	鱒口
"	" 25. 10. 10	史跡	仰西渠	"	" "	彫刻	随神（一對）
"	" 37. 11. 1	建造物	三島神社拝殿	"	" 49. 12. 17	"	大野山城守大伴直昌の位牌
"	" 39. 3. 26	工芸品	三十三燈台	"	" 51. 8. 31	天然記念物	樞の樹叢
"	" 42. 1. 25	名勝地	三坂峠	"	" 53. 7. 13	"	横
"	" "	"	皿ヶ嶺	"	" "	"	牛頭天王社の黒松
"	" 43. 3. 8	"	菅生山	"	" "	"	伊吹
"	" "	建造物	八幡神社本殿及び拝殿	"	" "	"	桂
町	昭和39. 1. 15	彫刻	三十三番神	"	" "	奉額	住吉神社の俳句の額
"	" 42. 12. 28	無形文化財	川瀬歌舞伎	"	" 53. 8. 25	工芸品	山城守陣鐘

文化財保護委員

年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名
36 ~ 38	宇都宮 音吉	39 ~ 50	宮脇 潔	47 ~	菅 良太郎
36 ~ 42	大野 憲	39 ~ 40	高井 頼元	48 ~	棟田 満雄
36 ~ 39	松本 重太郎	41 ~ 47	土居 正一	48 ~	大野 繁雄
36 ~ 44	宇都宮 佐市	43 ~	大西 利康	49 ~ 51	木村 孟
36 ~ 47	光田 繁光	44 ~	金子 佐々雄	51 ~	渡部 綱賀
36 ~	桃枝 松雄	47 ~	小田 慶孝	52 ~	久保 敏
39 ~	名智 禾之	47 ~ 48	松本 健	52 ~	相原 芳愛

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(13) 文化協会

久万町では、80余りの文化団体やグループが、それぞれの活動を続けていたが、これらの団体グループ相互の連絡・協調をはかりながら文化活動を推進し、香り高い文化のふるさとづくりの中核として「文化協会」結成の機運が高まり、昭和52年5月26日、18名による発起人会が開催され、発起人代表大田正志を選出し、会則の原案、事業計画を検討立案して、結成準備が進められ、昭和53年6月3日ここに「久万町文化協会」が設立された。

昭和51年1月、全町民の健全な体育・スポーツの振興をはかるとともに、体力の向上に寄与することを目的として、「体育協会」が結成され、活動が浸透しているが、この文化協会の設立により、体育と文化活動が、バランスの取れた車の両輪のごとく推進され、郷土の伝統芸能である川瀬歌舞伎をはじめ、俳句・民謡・舞踊など活発な発表大会が催されることとなった。

今後、寿命の延長と余暇の増加が予想されるなかで、健全な余暇の活用方法として趣味の拡大と充実が考えられる。よりよい生きがいを願う心情の表われとして益々盛んになりつつある文化活動を育成助長させ、豊かな心と生きがいの追求、連帯性のかん養と情操の陶冶をはかるための、相互連絡と協調をさせる機関としての「文化協会」の結成は、社会的要請とふるさと文化の振興の方向で重要な役割を果たすものと信じている。

(目的) 久万町における芸術、文化活動を振興し、町民文化とふるさと意識の向上に資するとともに、関係団体及びグループ相互の連携親睦をはかり、久万町の基本方針である香り高い文化の町づくりに寄与することを目的とする。

(事業) 1. 文化財の発掘及び保存活用。 2. 郷土芸能の保存伝承。 3. 調査活動、資料の出版配布、啓蒙。 4. 読書活動の推進。 5. 各種文化講演会。 6. 発表会、展覧会、文化祭の実施。 7. 芸術、文化関係団体及びグループの育成と連絡調整。 8. 文化行政の諮問に応えるとともに、諸行事への協力。 9. その他文化の振興に資すると思われる各種事業に関するを行なう。

久万町文化協会役員

役員名	担当部門	氏名	役員名	担当部門	氏名	役員名	担当部門	氏名
会長		河野 修	幹事	美術	野村 正良	幹事	茶道	野村 千代
副会長		大田 正志	〃	習字	西田 友三	〃	コーラス	高木 照子
〃		渡部 綱賀	〃	民謡	天野 文子	〃	カルタ	田中初太郎
〃		小倉 幸子	〃	舞踊	小田 絹子	〃	郷土会	名智 禾之
監事		土居 章衛	〃	歌舞伎	菅 高夫	〃	浄曲	真木 輝雄
〃		真木 輝雄	〃	万才	菅 良太郎	〃	箏曲	村上 辰子
顧問		上沖 健市	〃	吟詠	土居 章衛	〃	写真	石本 博一
〃		名智 禾之	〃	獅子舞	渡部 新雄	〃	将棋	佐伯 英二
幹事	俳句	小倉 宗清	〃	読書会	佐伯 宗繁	〃	囲碁	相原 芳愛
〃	短歌	大田 正志	〃	華道	鴻農 操	〃	盆栽	金子 敏久
						〃	文化財巡視員	渡部 綱賀

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

(14) 図書館

昭和34年町村合併後、旧町村公民館所有の蔵書を久万町中央公民館の図書室に集めてスタートした。

昭和42年から、読書の重要性と全町的利用の立場から読書グループの結成に重点を置き、グループに配本体制をとり、移動文庫をつくり「こばこと号」と名づけ、配本車で巡回配本を行うようになった。

昭和49年6月から、小中学校8校に巡回配本を行うようになった。

昭和49年10月には、懸案であった久万町読書グループ協議会を結成した。そして毎年グループ員の研修会を開催している。

昭和52年3月に、久万町民館ホールで愛媛県読書活動研究集会在開催された。

図書館職業別利用者数

(昭和42年度)

	生産 労務	交通 商業	教育 商業	公務員	その他 有業	不明 無職	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男	563	210	148	796	158	277	462	824	324	34	3,796
女	708	154	29	858	106	1,178	561	2,191	1,155	21	6,961
計	1,271	364	177	1,654	264	1,455	1,023	3,015	1,479	55	10,757

(昭和47年度)

	生産 労務	交通 商業	教育 商業	公務員	その他 有業	不明 無職	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男	59	47	25	471	78	161	1,290	1,337	336	41	3,845
女	19	26	23	215	245	861	1,945	2,838	1,957	74	8,203
計	78	73	48	686	323	1,022	3,235	4,175	2,293	115	12,048

(昭和52年度)

	生産 労務	交通 商業	教育 商業	公務員	その他 有業	不明 無職	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男	1	300	19	170	106	444	1,571	238	302	24	3,175
女	0	200	0	64	106	1,217	2,645	964	888	37	6,121
計	1	500	19	234	212	1,661	4,216	1,202	1,190	61	9,296

昭和52年度分類別利用状況

分類別 男女別	絵本	小説	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
男	42	18	72	37	170	144	207	65	75	122	15	2,208	3,175
女	124	76	106	42	136	240	183	123	65	96	31	4,899	6,121
計	166	94	178	79	306	384	390	188	140	218	46	7,107	9,296

(15) 社会体育（体力づくり）

3か町村の合併によって新しい町づくりの条件整備が進められ、5名の体育指導委員が委嘱された。体育指導委員は、11の公民館を基点として地域住民の体力づくり活動の普及啓蒙に努めてきた。しかし、久万町における医療費は漸増し、更に昭和41年から総合保健活動の一環として進められた地区診断の結果、潜在・慢性疾患の有病者が非常に多いことがわかった。このことにより、自分の健康は自分で守るという住民の積極的な保健意識を高めるため、昭和43年「体力づくりの町」を宣言、体力づくり推進協議会を結成した。以来、町内の関係機関が一体となり、保健・栄養・体育レクリエーションと三つの柱をたて町民総参加の体力づくり活動を強く推進してきた。

昭和34年から昭和36年の間には、合併後の諸条件整備が急がれ、社会体育に対してはほとんど目がむけられず、合併前の旧町村単位で農民祭の一環として体育大会が開かれていた程度である。

合併前、昭和32年4月、文部省から「地方スポーツ振興について」の通達が出され体育指導委員設置について要請があった。同年10月1日付をもって県と市町村が同時に委嘱状を交付し、久万町にも前記5名の体育指導委員が誕生したわけである。

昭和36年6月にはスポーツ振興法が制定された。これに基づき翌年4月には、久万町における体育指導委員に関する規則が定められ、この規則によって市町村教育委員会の非常勤職員であることが明確にされた。同年は、体育指導委員の役割や指導委員自体の研修に重点がおかれた。活動面では、現在も続いているバレーボール大会、野球大会、卓球大会等多くの参加者を得て盛大に開催された。

昭和38年は、県下初の女性指導委員1人を加えて6名となりその体制も強化された。活動も新たにソフトボール大会を加え活発になった。

昭和39年には、忘れてならないものとしてオリンピック東京大会があり、町内はもとより国内のスポーツに対する関心は急激に高まった。特に伊予路を走り継いだ聖火リレーと、郷土が生んだ片山美佐子の槍投げ出場は大きな話題を呼んだ。このことは「町民の誰もがこのオリンピックに参加しているのだ。」という意識を感じさせたのである。

207名のランナーによって聖火は、9月14日三坂峠から落合までの9区間を沿道に一万余の人波が続くなか美川へ引き継がれた。県下のランナーで女子青年は3名だけという栄光に輝いたひとり、大野喜美代は、「女子青年は県下で3名だけと知った時、責任の重大さに緊張すると共に大きな誇りを感じました。選ばれた誇りと完走できた自信は、私にとって一生の思い出であり心と生活の支えになることでしょう。」と述べている。

片山美佐子は、久万中学時代から砲丸投げに2年連続全国優勝するなど早くから郷土の期待を担い、オリンピックの晴れの舞台でも海外の強豪を退けて決勝進出を果たした。彼女のひたむきな精神と栄光への足跡はこれからも長く語りつがれることであろう。

同年1月には、町独自の「久万町体操」が誕生し県内外より注目を浴びた。この体操は、農

IV 香り高い文化の町づくり

家の庭先や仕事場、家庭の中、職場の休憩時、レクリエーションとして気軽にでき好評を得た。更に広く普及させるためソノシートにして各事業所へ配布したりして普及につとめた。現在でも老人ホームや各職場で午後3時には、町民体操がつづけられている。

昭和40年には、野球・ソフト・バレー・卓球大会のほか、スキー大会や青年・婦人の体育大会が行われるようになり、ほぼ定期大会の体制が整い参加者も多くなってきた。2月には第1回柔剣道大会が開催され、小中学生や一般選手400名余りの参加を得て盛況であった。久万中学校剣道部が、全国少年剣道大会で初優勝し町技として益々盛んとなった。

この年より2年間文部省のスポーツモデル町村の指定を受け、国庫補助により予算も増額となり体育備品の充実や条件整備を図ることができた。更に、合併後初めて町民運動会が開催され、町ぐるみの体力づくり活動へと大きく前進した。

施設面では、念願のスキー場が笛が滝公園に完成し、200メートルのスロープと初・中級コースができた。

昭和42年はNHKラジオ体操のほかに、町内各地区でのスポーツ活動が盛んになってきた。久万地区では、早朝ソフトボール大会が開催され多くの参加者があり大成功を収めた。

体育指導委員の著しい活動が認められ県教委より団体表彰を受けた。個人としても、多年活躍してきた山之内正昭と佐伯正俊が同時に表彰された。

昭和43年には県より体力づくり国民運動推進町村の指定を受けるとともに、これまでの体育行事、保健衛生、栄養の諸計画を総合的に推進するために「久万町体力づくり推進協議会」を結成した。更に全町的な体力づくり活動を推進するため同年7月22日町議会において「体力づくりの町」を宣言した。

宣 言

幸福な生活の基本的条件が健康な心身にあることは万人の認めるところであります。久万町では町民の総意により「体力づくりの町久万町」を宣言し町民一致協力して健康を守るため保健栄養改善、社会体育振興に協力するものであります。

右宣言する。

昭和43年7月22日

久万町体力づくり推進協議会

9月には南海放送「えひめの広場」で久万町の体力づくり活動がつぶさに紹介され、県下でも社会体育の先進地として久万町の名を高めた。日頃運動の機会に恵まれない者を対象に第一回福祉団体レクリエーション大会が開催された。

昭和44年には鳥取大学医学部の協力により、総合健康地区診断が大規模に実施された。

IV 香り高い文化の町づくり

昭和45年は町ぐるみの体力づくり活動が認められ体力づくり国民会議議長表彰を受けた。昭和46年には山之内正昭が全国体育指導委員協議会長表彰に輝やいた。施設では久万中学校グラウンドに夜間照明が設置され、今後の体力づくりは新しい局面を迎えるようになった。

昭和47年に初めて久万町水泳大会及び講習会が開催され、山の子供達も水泳をスポーツとして取り組むようになった。

昭和48年に落合部落など、49年には笛が滝グラウンドに夜間照明が設置され、各地区でコミュニティスポーツが開催されるようになった。バレークラブ等も誕生し定期的に練習するようになった。NHK夏期巡回ラジオ体操会が久万中学校で行われた年でもある。

昭和50年には久万町体力づくり推進協議会が、保健衛生・栄養・体育レクリエーションを三つの柱にした町ぐるみの体力づくり活動を認められ、団体の部門で内閣総理大臣表彰に輝やいた。県内では大洲市大川地区について二番目の快挙である。この受賞を契機として、更に町民の体力づくり活動を推進するために、翌年1月26日「久万町体育協会」が結成された。

昭和51年には久万の自然に親しみながら体力を養うことのできる新しいスポーツとして、県下で七番目のオリエンテーリング（OL）公認コースが設定された。このオープンを記念して第2回OL大会が開催され200名余りの参加者を得た。施設面では、父二峰中学校・畑野川小学校・直瀬中学校に夜間照明が設置され、各地で地区民総参加のナイトソフトボール大会等が多彩に行われるようになった。昭和52年からは毎月10日を久万町「体育の日」に設定、ファミリースポーツの普及に努めている。

昭和53年は、合併20周年記念として県民体育祭松山大会が、10月29日久万町で開催されるはこびとなり、このため町民が一丸となって、各種目の選手強化に力一杯頑張っている。

今後は更に総合グラウンド・町民体育館等施設の充実をはかり、健康と体力の増強を目ざして、久万町民のすべてが参加する体力づくり活動が一段と推進されていくことであろう。

久 万 町 体 育 指 導 委 員

年 度	氏 名	住 所	年 度	氏 名	住 所
32～45	山之内 正 昭	久 万	32～45	佐 伯 正 俊	久 万
32～33	山之内 朝 雄	東 明 神	32～35	西 森 匠	下 畑 野 川
32～36	宮 脇 弘	二 名	33～36	大 野 章	久 万
37～37	大 西 武 志	下 畑 野 川	37～37	関 井 義 弘	二 名
37～47	中 里 史 郎	久 万	38～39	和 泉 司 人	二 名
38～41	日之西 カツ子	下 畑 野 川	38～43	岡 徳 広	下 畑 野 川
39～49	石 丸 司	二 名	41～43	大 下 保	東 明 神
42～49	岩 城 岩 夫	直 瀬	44～49	重 藤 俊 博	上 野 尻
44～49	八 塚 昭 栄	上 畑 野 川	44～51	大 野 昌 利	露 峰
44～	岡 田 隆 綱	東 明 神	46～	三 好 武 親	久 万
46～46	小 田 紺 子	久 万	46～	滝 野 志	上 野 尻

IV 香り高い文化の町づくり

47 ~	片山毅	久万	48 ~	井上徳義	菅生
48 ~	西田満文	露峰	48 ~ 51	段ノ上 哮	直瀬
48 ~	西村俊勝	西明神	50 ~	真木孝志	上野尻
50 ~	日野朝雄	下畑野川	50 ~	松本邦広	直瀬
50 ~	西山清一	二名	52 ~	渡部忠司	上畑野川
52 ~	光田健	直瀬	52 ~	片岡重雄	父野川

(16) 体育協会

久万町では、昭和50年積年にわたる町民総参加の体力づくり活動が認められ総理大臣表彰の栄に浴することができた。これひとえに指導者と町民各位の積極的な協力の賜物である。しかしこの受賞は、町民の体力づくり活動をより広くより深く推進し、全町民の健康と幸せを築き上げるための今後の指針であり出発点でもあった。このことにより町内有志指導者を結集し、久万町の体力づくり活動を飛躍発展させるために「体育協会」を結成することにした。

昭和51年1月16日各種目の中心の指導者を発起人として準備会を開催。同年1月20日町全般における体育諸事業を効果的に展開するために、企画と役割を分担する機関として体力づくり企画委員会を開催。1月26日各種目の代表者及び久万町体力づくり推進協議会より推選された学識経験者をもって理事会を構成し、待望の「体育協会」が結成された。

本会の目的及び事業等は次のとおりである。

目的 ……本会は久万町体力づくり基本方針に沿って、全町民の体育スポーツの振興をはかるとともに体力の向上に寄与することを目的とする。

- 事業 ……
1. 全町民の体育スポーツ振興に関すること。
 2. 各種大会、講習会に関する行事の実施。
 3. 各スポーツクラブの強化発展と連絡融和。
 4. 体育スポーツ思想の普及啓蒙。
 5. その他本会の目的達成に必要なこと。

組織 ……本会は町内の各種スポーツクラブに所属する者及び本会の趣旨に賛同する町民をもって組織する。

本会に次の部を置く。野球部・ソフト部・バレー部・テニス部・卓球部・陸上競技部・サッカー部・剣道部・柔道部・バドミントン部・ゴルフ部・スキー部。

体育協会の結成によって、各種目大会は各部の役員により企画・運営されるようになり、更に町の協力機関としての体制も強化され町民総参加の体力づくり活動は大きく一步前進した。

久万町体育協会役員

役職 年度	会 長	副 会 長	理 事 長	事 務 局
51~	河野修 (町長)	神野寅雄・小椋秀雄 (教育長)	上岡義幸	大嶋洋一 (社会体育担当者)

(17) 今後の社会教育

久万町社会教育は、昭和46年（1971）4月に出された。「社会教育審議会答申」の本旨を基本理念として、社会構造の変化に目を向け、地域の住民意識をは握し、生涯の各時期における教育の推進をはかるとともに、家庭、学校、社会教育の連携を密にして、郷土愛に満ちた人づくりに努めることである。

その実現をはかるためには、久万町社会教育長期計画の策定と、それを着実に実現するための単年度計画を調和させ、大衆動員型の社会教育を推し進めることが必要である。

社会教育は、施設の整備と指導者が大事であり、その両面からよりよい人づくりができるのである。そのために中央で行われる学級講座を指導者の養成に、その人達が地域で社会教育の実践指導者となるよう配慮することが望まれる。かかる意味で民間指導者の発掘養成と活用は社会教育の課題である。また地域課題解決のために学習し、話し合い、実践活動が展開せられ、地域コミュニティと自治意識の啓培をはかる社会教育を目指して邁進したい。

生涯のそれぞれの時期をよりよく生きるために、学習の継続が特に大切であるところから、対象別の学習、各期共通の立場での学習、地域と中央の学習等を相互に補完し合う条件整備に努めなければならない。

乳幼児教育は、乳幼児期の正しいしつけ、能力開発などについての具体的な問題をとらえて、親のあり方を学習するもので、学習プログラムや視聴覚機器の活用による教育方法にも工夫をしなければならない。

青少年教育は、在学青少年の社会教育活動の場を拡大しなければならない。特に郷土の伝統伝承に果たす役割の開発が重要課題であろう。青年教育は、次代を背負う人づくりの重要な領域にあって、健康で活動的な学習、地域に根ざした活動実践の指導が望まれる。リーダーとなる青年の海外派遣なども大いに推進しなければならない。

壮年教育は、公民館の成人教育とともに推進しなければならないが、団体育成をはかりながら、自ら進んで学習や地域活動に参加する活気のある人づくりを目指すことが望まれる。

婦人教育は、婦人会員の増加運動を推進しながら、地域の婦人学習を継続しなければならない。特に生活に役立つ学習の内容、方法を考えること、趣味グループの育成をはかることだ。

高令者教育は、寿命の延長、自由時間の増加などを考えると重要である。長い生活経験を生かした学習の内容、方法を工夫するとともに、楽しく生きる趣味拡大学習も必要であろう。

久万町社会教育は、先輩各位の絶ゆまぬ努力によって進められてきたが、今後も町民ひとりひとりの自発性を育てることと併せて、町民の要求に応えられる条件整備が必要である。施設は、町内11の公民館と地域集会所を活用すること、できればこれらの施設に附随する小運動場が望まれる。また学校施設開放が地域の人たちに気軽に利用できるよう考えたい。

こうした施設の活用をはかる地域指導者づくりが急がれる。特に民間の有志指導者づくりは今後の社会教育をささえ、発展させるための大きな課題である。

6 久万町民館

施設の概要

コミュニティセンター「久万町民館」は、過疎地域集落整備事業（自治省所管）の一環として、昭和47年（1972）12月1日着工、翌48年9月30日完成。同年10月27日落成式を挙行了た。

総事業費1億5,434万円（内訳、用地購入費1,074万円、敷地造成費680万円、建築工事費1億1,420万円、設計管理費300万円、付帯工事費160万円、調度備品費1,300万円、事務費・その他500万円）その財源内訳・国庫補助金2,000万円、県補助金1,200万円、地方債6,200万円、寄付金1,100万円、一般財源4,934万円。鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上2階、冷暖房完備。

総敷地面積5,413.63㎡、建築床面積1,500㎡で、ホール、和室会議室、老人室、調理実習室、郷土資料室、図書室、結婚式場を備えた、当時としては近代的な施設である。

施設の設計管理は、松山市の藤原池内建築事務所、工事施行は、大阪市の株式会社銭高組。

町民館設置の目的

久万町開発の主体となる、町民の自治意識高揚と、町勢の発展をはかるため、産業の再開発、教育文化の普及、生活改善の推進、保健、福祉の増進、情報連絡、レクリエーション等に便宜を提供して、新しい町づくり、コミュニティづくりの、総合的かつ拠点施設とする。

町民館の管理運営

久万町民館の設置および管理に関する条例、並びに、運営協議会条例に基づき、町長が委嘱する12名の運営委員と、館長（教育長兼務）、事務長、用務員1名で、48年（1973）11月1日発足した。当初は、町民館独自の機能を発揮させるため、専任の事務長を置いていたが、町民館の利用および教育機能は、中央公民館としての社会教育活動に負うところが多く、教育委員会と不離一体の運営が望まれるところから、昭和52年（1977）4月より、事務長を教育次長兼務とし、女子職員1名を加えて現在に至っている。

館内の食堂は、オープン当初から町委託により、久万町母子福祉会が経営している。

町民館の利用機能

各種団体、機関、グループの施設利用、および、図書館、移動文庫、視聴覚ライブラリー等町民の自主的参加による利用の便宜をはかるため、教育委員会と、町民館の職員が、それぞれ事務を分担し対処してきた。町民館結婚式、文化祭等の諸行事も同様である。

町民館の使用料金表（基本使用料金は4時間まで、超過1時間当たり約2割加算となる）

部 屋 別 料金の推移	ホー ル		研 修 室		調 理 室		和室会議室		老 人 室		結 婚 式 場	宴会に使用する場合の加算金 (会費制結婚披露宴は無料)
	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間		
48年9月制定	2,000	2,500	500	600	200	250	300	400	200	250	1,000	各部屋 1,000
48年12月改正	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	総 合 5,000
51年9月改正(現行)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 10,000

町民館の教育機能

生涯教育の立場に立ち、政治、経済、福祉、教育文化を、総合的に向上発展させ、あたたかい人間性の復活をめざして、①体力づくり、②社会道徳の高揚、③生産教育、④政治教育の、重点4目標を置き、教育委員会と町民館の、総力を結集して取り組んできた。

主要教育活動としては、明治青年大学、婦人大学、夏期成人講座、中央青年講座等 中央公民館としての役割と、結婚披露宴の会費制、趣味の教室開設等、町民館独自の教育機能も果たしている。趣味の教室には、民謡・詩吟・生花・盆栽・古典・舞踊・美術・俳句等がある。

町民館の利用状況

室 別	48 年 度		49 年 度		50 年 度		51 年 度		52 年 度		計	
	回(回)数	人 員	回(回)数	人 員	回(回)数	人 員	回(回)数	人 員	回(回)数	人 員	回(回)数	人 員
ホ ー ル	53回	5,024	164	14,168	197	13,069	220	15,814	223	12,846	857	60,921
和 室 会 議 室	41回	1,078	139	2,956	183	4,864	288	5,953	223	5,227	874	20,078
資 料 ・ 図 書 室	100回	9,734	300	22,168	300	22,663	300	16,940	300	17,520	1,300	89,025
調 理 実 習 室	8回	228	23	5,431	16	1,145	3	65	23	528	73	7,397
老 人 室	30回	657	119	1,652	123	2,618	182	3,693	250	4,500	704	13,120
相 談 室	100回	1,000	300	3,000	300	3,000	318	2,421	300	2,387	1,318	11,808
研 修 室	52回	1,641	185	10,895	221	7,520	248	8,429	227	5,011	933	33,316
結 婚 式 場 ・ 和 室 1. 2	25回	717	92	2,071	13	1,066	10	662	10	660	150	5,176
食 堂	100回	3,937	300	10,905	300	11,170	300	12,613	300	15,516	1,300	54,141
ロ ビ ー	100回	4,800	300	14,400	300	14,400	300	14,400	300	17,500	1,300	65,500
計		28,636		87,646		81,515		80,990		81,695		360,482

(注)48年度は、12月から翌年3月までの数値。室別の利用内容は、ホール=大集会、講演会、式典、芸能発表、結婚披露宴等。和室会議室=中小会議、講座、教室等。老人室=休憩、娯楽、趣味活動等。研修室=小会議、各種作品展示等。相談室=小会議、人権相談等。

町民館運営協議会委員 (() 内は在職年度)

会長 日野泰 (48~49) 河野修 (50~現) 委員 西岡忠義 (48~49) 大野卓 (48~51) 小倉清澄 (48~49) 土居寛 (48~50) 段之上明 (48~49) 水谷清一 (48~50) 小田絹子 (48~50) 古田邦博 (49) 菅留八 (48~52) 横田重市 (48~50) 小倉清 (48~50) 木村孟 (48~50) 兵頭進 (48~51) 関井義弘 (50~現) 鈴木正登 (50) 正岡豊 (50~51) 岡田元一 (50~51) 西森勸 (51~現) 篠崎隆美 (51~現) 鈴木洋一 (51~52) 小倉幸子 (51~現) 稲田実 (51~現) 大野章 (51・現) 上沖健市 (52~現) 二宮岸雄 (52~現) 山岡勇 (52~現) 小田慶孝 (52) 田村美郎 (52~現) 宇都宮正 (現) 石丸亨 (現)

町民館職員

館長 小椋秀雄 (兼48~現) 事務長 小黑留吉 (専48~51) 正岡昭二 (兼52) 岡作太郎 (兼現) 用務員 大野久雄 (専48~現) 事務員 河野博子 (専52~現)

Ⅳ 香り高い文化の町づくり

久万町の結婚改善

結婚改善の必要性は、昭和20年代中頃から、社会教育が進むにつれて、誰もが痛感し口にしながら、地方の慣例や、風習にはばまれ、なかなか実行されなかった。昭和30年代に入り、町内各所に公民館が設立し、新生活運動の盛り上がり等もあって、一時公民館結婚が盛んに行われるようになったが、その後、経済の高度成長期に入り、消費は美徳とさえいわれた好景気の影響で、段々様式が派手になり、久万町在住者同志でも、松山市で式を挙げる者が増加した。

昭和48年10月町民館、翌49年久万農協会館と、あいついで結婚式場が完成し、松山市への流出は減少したが、内容はかわらず、豪華なものが続けられた。その頃から、オイルショック後の節約ムードが再燃し、「もう少し無駄を省くことはできないか。」と、町理事者、町民館運営委員、公民館、婦人会等の関係者が、数度にわたる研究協議の結果、「会費制」の採用を決め、昭和51年、会費制結婚式を推進するための、「久万町結婚改善推進委員会（会長町長、委員30名）」が発足した。委員会においては、「物心両面の浪費と無駄をなくし、結婚する当事者の幸を中心に、よりよい家庭生活の基礎づくり」を目的とした、「久万町結婚改善規則」の草案づくり（昭和51年10月1日規則第3号公布）。結婚改善実施要領作成、結婚改善のしおり印刷配布等、趣旨徹底に努力し、ついに、昭和51年11月23日会費制結婚式第1号を挙行了したのである。

久万町結婚改善規則に基づく会費制結婚式の実績

昭和51年度（11月23日～52年3月末日まで）	4	組
昭和52年度（4月1日～53年3月末日まで）	10	組
昭和53年度（4月1日～10月31日まで）	10	組